

令和 7 年度 第 1 回 埼玉県立近代美術館協議会

日時：令和 7 年 8 月 2 2 日（金）午後 2 時

会場：埼玉県立近代美術館 会議室

【 目 次 】

I 令和 6 年度 事業報告・・・P 1

- 1 常設展示事業・・・P 1
- 2 企画展示事業・・・P 3
- 3 美術作品収集事業・・・P 9
- 4 一般向け普及事業・・・P 13
- 5 美術館の利用促進事業・・・P 17
- 6 子供向け事業・・・P 18
- 7 学校との連携・・・P 20
- 8 ボランティア活動・・・P 22
- 9 「椅子」の有効活用・・・P 23
- 10 一般展示室の利用状況・・・P 24
- 11 入館者数一覧・・・P 29
- 12 決算の概要・・・P 30

II 令和 7 年度 事業実施状況・・・P 31

- 1 常設展示事業・・・P 31
- 2 企画展示事業・・・P 34
- 3 美術作品収集事業・・・P 38
- 4 一般向け普及事業・・・P 38
- 5 美術館の利用促進事業・・・P 40
- 6 子供向け事業・・・P 41
- 7 学校との連携・・・P 43
- 8 ボランティア活動・・・P 46
- 9 「椅子」の有効活用・・・P 46
- 10 一般展示室の利用状況・・・P 47
- 11 入館者数一覧・・・P 48
- 12 当初予算の概要・・・P 49

I 令和6年度 事業報告

1 常設展示事業

(1) MOMASコレクション（常設展）の開催

年間を4つの会期に分け、会期毎に名品を核とした「セレクション」コーナーや多彩なテーマを掲げたコーナーを設定し、作品の魅力を紹介した（一部、借用作品を含む）。（※有料観覧者数には、企画展観覧券付属の招待券で入場した人数を含む。）

内 容	展示 作品数	期 間	観覧者数
○「セレクション」 ピカソほか、MOMASコレクションの名品を紹介。 ○「シュルレアリスム宣言100周年」 夢や無意識といったキーワードをもとに、シュルレアリスムの世界を紹介。	82点	自 6月 8日（土） 至 8月25日（日） （66日間）	9,858人 1日当たり149人 うち有料観覧者数4,256人 1日当たり64人
○「セレクション」 モネほか、MOMASコレクションの名品を紹介。 ○「旅路の画家」 旅をテーマに、スケッチや版画、日本画などを紹介。 ○「さいきんのたまもの」 近年新たに美術館のコレクションに仲間入りした作品を紹介。	63点	自 8月31日（土） 至 11月24日（日） （78日間）	10,248人 1日当たり131人 うち有料観覧者数4,224人 1日当たり54人
○「セレクション」 シャガールほか、MOMASコレクションの名品を紹介。 ○「戦後日本美術の開拓者たち」 企画展「没後30年 木下佳通代」の開催にあわせ、関西の作家を中心に、戦後の日本美術の動向を紹介。 ○「特集：木村直道」 廃品などを使いユーモアあふれる作品を生み出した、県内ゆかりの彫刻家・木村直道の世界を紹介。	73点	自 11月30日（土） 至 令和7年 3月2日（日） （75日間）	9,140人 1日当たり121人 うち有料観覧者数3,068人 1日当たり41人

内 容	展示 作品数	期 間	観覧者数
○「セレクション」 シニャックほか、MOMAS コレクションの名品を紹介。 ○「アメリカの美術家たち」 移動や越境をキーワードに、新天地あるいは故郷としてのアメリカ、芸術の実験場としての都市などの視点から、アメリカで活動した作家の作品を紹介。	72点	自 令和7年 3月8日（土） 至 6月1日（日） （71日間）	10,193人 1日当たり144人 うち有料観覧者数3,143人 1日当たり44人

(2) コレクション・トークの開催

MOMAS コレクションで展示中の収蔵作品から1点を選んで、当館学芸員が解説を実施した。（年10日程度）

	期日	担当学芸員	解説作品	参加者数
①	5月26日（日）	嶋原学芸員	リートフェルト《レッド・アンド・ブルー》	25人
②	6月23日（日）	吉岡主任学芸員	キスリング《リタ・ヴァン・リアの肖像》	17人
③	8月17日（日）	佐伯学芸員	ポール・デルヴォー《森》	30人
④	9月7日（土）	松江学芸員	文谷有佳里《何もない風景を眺める》	26人
⑤	9月23日（月・祝）	菊地学芸員	堂本印象《鳥言長者草》	31人
⑥	10月20日（日）	篠原学芸員	斎藤豊作《装飾画（蓮と鯉Ⅰ）》	23人
⑦	12月22日（日）	佐藤学芸員	郭徳俊《クリントンと郭》	12人
⑧	1月18日（土）	大浦主任学芸員	木村直道《エリオット氏のトイレット》	19人
⑨	2月23日（日・祝）	平野副館長	北辻良央《WORK--HH》	14人
⑩	3月23日（日）	西尾学芸員	武内鶴之助《アラシの夕》	23人
計				220人

2 企画展示事業

(1) 企画展の開催

特定のテーマのもとに、国内外の作品を年4回展示した。

展 覧 会 名	内 容	展示 作品数	期 間	観覧者数
アブソリュート・チェアーズ	私たちの身近な存在である椅子は、権威の象徴として、記憶の依り代として、あるいは拡張された身体として、様々な意味や象徴性をまとっている。アーティストたちは椅子がもつ意味をとらえ、作品を通じて社会の不和や矛盾、個人的な記憶や他者との関係性などを浮かび上がらせてきた。本展では、椅子をめぐる国内外の平面・立体・映像作品を紹介し、現代美術のなかの椅子の機能や含意を読み解く。	83 点	自 令和6年 2月17日（土） 至 5月12日（日） （76日間/ R6年度・38日間）	R6 年度 6,190 人 1 日当たり 162 人 うち有料観覧者数 4,050 人 1 日当たり 107 人 R5・R6 計 11,256 人
吉田克朗展 ーものに、風景に、世界に触れる	吉田克朗（1943-1999）は、1960年代末に登場したものの派の中心的な作家として知られている。その一方、最初期から写真素材にした版画を制作し、70年代半ばから風景の断片を描くドローイング、物体の転写やフロッタージュを通して絵画を模索した。80年代には風景や身体を抽象化した絵画連作「かげろう」を手がけ、その後、黒鉛を手でこすりつけて描く「触」のシリーズを精力的に制作する。本展では、埼玉県深谷市出身の吉田を初めて回顧し、その全貌に迫る。	174 点	自 7月13日（土） 至 9月23日（月・祝） （66日間）	8,863 人 1 日当たり 134 人 うち有料観覧者数 4,402 人 1 日当たり 67 人

展 覧 会 名	内 容	展示 作品数	期 間	観覧者数
没後 30 年 木下佳通代	木下佳通代（1939-1994）は兵庫を拠点に活動した、関西の戦後美術を代表する作家のひとりである。1960 年代半ばより、神戸で結成された前衛美術集団「グループ〈位〉」と行動をともにしながら、存在、認識、空間などをテーマに、三次元と二次元像のズレを、写真を用いて表現した。その後絵画へと軸足を移していくが、一貫して「存在とは何か」という哲学的な問いに向き合い続けた。大阪中之島美術館との巡回展として開催される本展では、初期から晩年までの代表作を展示し、国内初となる美術館での個展として、作家の全貌を紹介する。	133 点	自 10月12日（土） 至 令和7年 1月13日（月・祝） （76日間） ※10月16日、17日は 施設メンテナンス のため休室 （実質74日間）	6,365 人 1 日あたり 86 人 うち有料観覧者数 3,264 人 1 日当たり 44 人
メキシコへの まなざし	1950 年代の日本では、メキシコ美術が盛んに紹介され、多くの美術家はその鮮やかな色彩や力強い造形表現に魅了された。当館では、開館以来メキシコの近現代美術を収集してきたが、その出発点には、50 年代のメキシコ美術に対する熱いまなざしがあったと考えられる。本展では、メキシコに憧れた日本の美術家たちの足跡と、当館のコレクションの双方から、戦後日本がメキシコ美術をどのように捉えたのかを考察する。	148 点	自 令和7年 2月1日（土） 至 5 月 11 日（日） （88 日間/ R6 年度・51 日間）	7,184 人 （R6 年度内） 1 日あたり 141 人 うち有料観覧者数 4,568 人 1 日当たり 90 人 R6・R7 計 13,709 人／ 有料観覧者数 8,765 人

(2) アーティスト・プロジェクトの開催

MOMAS コレクションや企画展の枠を超え、現在活躍しているアーティストを紹介する展示プログラムとして開催した。

展 覧 会 名	内 容	展 示 作品数	期 間	観覧者数
アーティスト・プロジェクト#2.08 松平莉奈	京都を拠点に活動する松平莉奈（1989-）は、日本画や東洋の絵画の画材や技法をベースに、日本近世の史実や物語、歴史上の人物などを題材にした具象画を制作している。「他者について想像すること」をテーマとした松平が描く人物像は、時にユーモラスに、時に迫力をもって、けして完全にはわかりあえない他者への理解、共感を促す。本展では新作を中心に紹介する。	16 点	自 令和7年 2月 1日（土） 至 5月11日（日） （88 日間/ R6年度・51日間）	14,747 人

(3) 関連事業等の開催

企画展について理解を深めるため、関連事業等を開催した。

ア アブソリュート・チェアーズ

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
4月21日（日）	ワークショップ「埼玉県立近代美術館の避難プロトコルをプレイする。」	檜皮一彦（本展出品作家）	12人	9人

イ 吉田克朗展－ものに、風景に、世界に触れる

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
7月21日（日）	レクチャープログラム① 「吉田克朗を語る」	千葉成夫（美術評論家）	80人	61人
8月31日（土）	レクチャープログラム② 「吉田克朗の絵画について」	沢山遼（武蔵野美術大学准教授、美術評論家）	80人	64人

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
9月23日（月・祝）	クロージングイベント 「これからの吉田克朗」	①連続対談 A 吉田有紀（作家ご長男）×平野到（当館副館長） B 山本雅美（奈良県立美術館学芸課長、吉田克朗研究者）×西澤晴美（神奈川県立近代美術館主任学芸員、吉田克朗展担当者） ②ラウンドテーブル 吉田有紀（作家ご長男）、吉田成志（作家ご次男）、山本雅美、西澤晴美、平野到、菊地真央（当館学芸員）	各回80人	① 90人 ② 94人

ウ 没後30年 木下佳通代

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
10月19日（土）	レクチャー「展覧会のための調査から見てきたもの」	大下裕司（大阪中之島美術館学芸員）	80人	37人
11月3日（日・祝）	対談「絵画から写真、そして絵画へー存在からも自由になった木下佳通代」	植松奎二（美術家）、建畠哲（当館館長）	80人	46人
1月12日（日）	担当学芸員によるスライド・レクチャー	佐藤あゆか（当館学芸員）	80人	22人

エ メキシコへのまなざし

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
2月8日（土）	レクチャー「1955年のリアリズム」	辻泰岳（専門：美術史および建築史）	80人	57人
2月24日（月・祝）	レクチャー「岡本太郎とメキシコ」	仲野泰生（京都場館長／元川崎市岡本太郎美術館学芸員）	80人	102人

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
3月1日（土）	トーク「1960年代メキシコ紀行 ―利根山光人のカメラを通して―」	立花 雅子（利根山光人長女／アルテトネヤマ理事）、佐伯 綾希（当館学芸員）	80人	72人
3月22日（土）	制作実演＋トーク＋映像上映	イサイーアス・ヒメネス（メキシコ民芸作家）、山本 正宏（LABRAVA）	80人	163人

オ アーティスト・プロジェクト＃2.08

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
2月2日（日）	作家によるギャラリートーク	松平莉奈（本展出品作家）	－	35人
3月15日（土）	作家によるスライドレクチャー	松平莉奈（本展出品作家）	80人	56人

(4) ギャラリー・トークの開催

より充実した鑑賞の機会とするため、担当学芸員による展示解説を実施した。

展覧会名	期 日	参加者数	備 考
アブソリュート・チェアーズ	4月13日（土）	32人	
吉田克朗展	7月14日（日） 8月25日（日）	32人 45人	

展覧会名	期 日	参加者数	備 考
没後30年 木下佳通代	10月27日（日）	25人	
	12月15日（日） ※手話通訳・文字表示付き	25人	協働：NP0法人エイブル・アート・ジャパン （文化庁委託事業 令和6年度障害者等による文化芸術活動推進授業「みんなでミュージアム」） 協力：株式会社ジャパンディスプレイ
メキシコへのまなざし	令和7年4月12日（土） 令和7年5月4日（日・祝）	42人 76人	
アーティスト・プロジェクト #2.08	令和7年3月2日（日）	25人	

(5) ミュージアム・カレッジの開催

埼玉大学教養学部との共催により、企画展に関連したテーマで公開講座を開催した。

テーマ：「「没後 30 年 木下佳通代」によせて—絵画、写真を解きほぐす—」

期 日	テーマ	講 師 等	定 員	参加者数
11 月 30 日（土）	「クオリアからクオリティへ—色彩と絵画を哲学する—」	高橋克也（埼玉大学大学院人文社会科学研究科教授）	80 人	30 人
12 月 7 日（土）	「木下佳通代—その思考と生涯—」	佐藤あゆか（当館学芸員）	80 人	34 人
12 月 14 日（土）	「コンセプチュアル・アートとしての写真」	井口壽乃（埼玉大学名誉教授）	80 人	23 人
12 月 21 日（土）	「抽象の想像力—女性アーティストの仕事—」	中嶋泉（大阪大学大学院人文学研究科准教授）	80 人	40 人
計				127 人

3 美術作品収集事業

近現代美術を対象に、本県にゆかりのある作家及び本県の美術界に影響を与えた国内外の作家の作品を収集している。令和6年度は、美術資料選考評価委員会を2回開催し、36点の貴重な作品を収集した。

- ・第1回美術資料選考評価委員会 令和6年10月1日（月）～10月9日（水） 持ち回り審議（寄贈：10点）
- ・第2回美術資料選考評価委員会 令和7年2月19日（水） 対面（寄贈：21点、寄託：5点）

なお、作品の購入については、財政状況が厳しいことから、実施出来ない状況が続いている。

【収集方針】 1 本県にゆかりのある優れた作家の作品	2 本県の美術界に影響を与えた国内外の作家の作品
3 本県美術文化の振興に寄与する作品	4 上記の作家及び作品を理解する上で必要とする資料

◆寄贈(31点)

No.	種別	作家名	作品名	制作年	材質・技法	収集方針
1	油彩画	加藤清美	閉ざされた扉 B	1976(昭和51)年	油彩	2
2	版画	中林忠良	中林忠良オリジナル銅版画集『剥離される日々』	1973(昭和48)年	エッチング、アクアチント、メゾチント、ドライポイント、ディープエッチングほか、紙	1
3	版画	小作青史	小作青史石版画集『VARIATION B』	1974(昭和49)年	リトグラフ、紙	2
4	版画	柄澤齊	『燭罪領<「七つの大罪」>による』	1975(昭和50)年	木口木版、雁皮刷、紙	2
5	版画	池田満寿夫	横たわる婦人	1961(昭和36)年	ドライポイント、アクアチント、紙	2
6	版画	池田満寿夫	出来事	1962(昭和37)年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	2
7	版画	池田満寿夫	花嫁の領地	1962(昭和37)年	ドライポイント、エッチング、紙	2
8	版画	池田満寿夫	庭を横切る昆虫	1962(昭和37)年	ドライポイント、エッチング、紙	2
9	版画	池田満寿夫	ぼくだけのもの	1963(昭和38)年	ドライポイント、ルーレット、紙	2
10	版画	池田満寿夫	日付のない日	1963(昭和38)年	ドライポイント、ルーレット、エッチング、紙	2

No.	種別	作家名	作品名	制作年	材質・技法	収集方針
11	油彩画	堀田操	不安の貯蔵	1954(昭和29)年	油彩、カンヴァス	1
12	油彩画	堀田操	静夜	1968(昭和43)年	油彩、カンヴァス	1
13	油彩画	堀田操	郊外遊園	1971(昭和46)年	油彩、カンヴァス	1
14	油彩画	長沢秀之	風景—曖昧な存在	1992(平成4)年	油彩、カンヴァス	1
15	ドローイング	沢居曜子	Line-Work C-1	1977(昭和52)年	コンテ、カーボン、ケント紙	2
16	ドローイング	沢居曜子	Line-Work IV-77-11	1977(昭和52)年	カーボン、ケント紙	2
17	ドローイング	沢居曜子	Line-Work VI-78-21	1978(昭和53)年	コンテ、ケント紙	2
18	ドローイング	沢居曜子	Line-Work VII-78-5'	1978(昭和53)年	アクリル、鉛筆、ワトソン紙	2
19	ドローイング	沢居曜子	Line-Work VII-78-15	1978(昭和53)年	アクリル、鉛筆、ワトソン紙	2
20	ドローイング	沢居曜子	Line-Work V-79-2	1979(昭和54)年	コンテ、ケント紙	2
21	ドローイング	沢居曜子	Line-Work VI-79-16	1979(昭和54)年	コンテ、ケント紙	2
22	版画	吉田克朗	Work "46"	1975(昭和50)年	リトグラフ、紙	1
23	油彩画	小松崎邦雄	仁科の岬	1956(昭和31)年	油彩、カンヴァス	1
24	油彩画	小松崎邦雄	四月の日曜日	1964(昭和39)年	油彩、カンヴァス	1
25	油彩画	根岸芳郎	88-1-20	1988(昭和63)年	アクリル絵具、綿布	2
26	彫刻	永井天陽	metaraction #31 P-1	2023(令和5)年	ぬいぐるみ、アクリル材	1

No.	種別	作家名	作品名	制作年	材質・技法	収集方針
27	写真	出店久夫	天上の華	2024(令和6)年	寒冷紗貼りパネル、ジェッツ、ゼラチンシルバークラウド、写真塗料、アクリル、色鉛筆、ニス仕上げ	1
28	写真	出店久夫	泥濘の象-I	2024(令和6)年	和紙貼りパネル、ジェッツ、ゼラチンシルバークラウド、写真塗料、アクリル、色鉛筆、ニス仕上げ	1
29	写真	出店久夫	泥濘の象-II	2024(令和6)年	和紙貼りパネル、ジェッツ、ゼラチンシルバークラウド、写真塗料、アクリル、色鉛筆、ニス仕上げ	1
30	油彩画	早瀬龍江	天賜	制作年不詳 (1950年代)	油彩、カンヴァスボード	1
31	ドローイング	横尾龍彦	天の秘球	1978(昭和33)年	グアッシュ、紙	1

◆寄託(5点)

No.	種別	作家名	作品名	制作年	材質・技法	収集方針
1	油彩画	森田恒友	作品名不詳	制作年不詳 (1911[明治44]-1913[大正2]年頃)	油彩、金泥、木炭、カンヴァス	1
2	油彩画	森田恒友	作品名不詳	制作年不詳	油彩、カンヴァス	1
3	油彩画	森田恒友	ヴェトウイユ	1915(大正4)年	油彩、板	1
4	油彩画	森田恒友	作品名不詳	1916(大正5)年頃	油彩、カンヴァス	1
5	油彩画	森田恒友	コンポジション	制作年不詳	油彩、カンヴァス	1

◆令和6年度収集作品数と収蔵作品総数

令和7年3月31日現在

区分	令和6年度収集点数			収蔵作品
	購入	寄贈	保管転換ほか	総数
日本画	0	0	0	505
油彩画ほか	0	9	0	695
ドローイング	0	8	0	859
版画	0	10	0	1,405
写真	0	3	0	229
映像	0	2	0	6
平面その他	0	2	0	21
彫刻	0	1	0	199
立体その他	0	1	0	14
工芸	0	0	0	50
書	0	0	0	31
資料Ⅰ	0	1	0	151
資料Ⅱ	0	0	0	34
合計	0	31	0	4,199

4 一般向け普及事業

(1) ミュージアム・レクチャーの開催

多くの方々に美術に親しんでもらうため、レクチャーを含むプログラムを開催する。内容については当館の展覧会や収蔵作品と必ずしも結び付けず、聴講者が今後様々な場で作品を鑑賞する時や、制作を行う際の刺激となることをねらいとした。

期 日	内 容	講 師	定 員	参加者数
11月2日（土）	「ビフォー・アフターを越えて―保存修復の技法と理念」	田口かおり（京都大学大学院人間・環境学研究科准教授）	80人	21人

(2) ミュージアム・シアターの開催

映画や音楽、パフォーマンスといった、展覧会ではなかなか紹介できない表現について取り上げるプログラムを開催した。

期 日	内 容	講 師	定 員	参加者数
8月3日（土）	ダンスパフォーマンス「Errance-さすらい」 （同日2回講演） ※講演後、アフタートークあり	振付：ディモ・キリーロフ・ミレフ 出演：三崎彩（コンテンポラリーダンサー）	各回50人	① 50人 ② 55人
令和7年 3月8日（土） 3月9日（日）	「映画のなかの女性イメージ ―見る／見られる女性」 3月8日 上映作品 ①「めまい」②「裏窓」③「燃ゆる女の肖像」 3月9日 上映作品 ④「めまい」⑤「燃ゆる女の肖像」 ※⑤上映後、講演会あり	斉藤綾子（映画研究者、明治学院大学教授）	各回80人	3月8日：42人 3月9日：118人

(3) 一般団体案内

企画展やMOMASコレクション展を観覧する2人以上の団体を対象に、スライドによる案内（「スライド・トーク」）を行った。内容は、展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応した。なお、視覚障がい者を対象としたガイドや講座も実施した。

ス ラ イ ド ・ ト ー ク : 16 団 体 318 人
視覚障害者鑑賞ガイドプログラム : 6 団 体 83 人

(4) 資料閲覧室の運営

国内外の美術図書、雑誌を公開するとともに、美術情報の提供や資料相談を行った。

開室日時 : 火・木・土曜日の 13 時～17 時

資料相談数 : 141 件

利 用 者 数 : 2,341 人

(5) 広聴広報活動

ア 来館者の意見を美術館活動に反映していくため、受付にアンケートコーナーを設置。

併せて、企画展、MOMAS コレクション、普及関連の講座等でアンケート調査を実施した。

【企画展アンケート結果】

- 「アブソリュート・チェアーズ」 (2 月 17 日～5 月 12 日、76 日間) / 回答数 523 件 / 満足度 97%
- 「吉田克朗展」 (7 月 13 日～9 月 23 日、66 日間) / 回答数 180 件 / 満足度 96%
- 「没後 30 年 木下佳通代」 (10 月 12 日～1 月 13 日、74 日間) / 回答数 222 件 / 満足度 95%
- 「メキシコへのまなざし」 (2 月 7 日～5 月 11 日、88 日間) / 回答数 256 件 / 満足度 95%

(主な意見)

- ・椅子という身近なものがテーマなので、小学生の子供も楽しめるかなと思って来館した。家具という親しみやすい性質がある反面、権力との関係性であったり、各人の社会的立場を表すものであったり、色々な「椅子」の意味について改めて考えることができ、有意義な内容だった。
- ・レクチャーを聞いたことによって作家の人物像や背景により近付くことができ、作品への見る思いも厚みが出たように思う。とてもよい経験になった。
- ・本、雑誌といった資料が豊富だった事がとても良かった。古いメディアはいくらインターネットを探しても見つからない重要な情報を持っている事が多いので、このような形でそれらを知る機会を作ってくれた事がとてもありがたかった。

【MOMAS コレクションアンケート結果】

○6月8日～8月25日（66日間）／回答数 432 件／満足度 99%

○8月31日～11月24日（78日間）／回答数 387 件／満足度 97%

○11月30日～令和7年3月2日（75日間）／回答数 363 件／満足度 99%

○3月8日～6月1日（71日間）／回答数 432 件／満足度 99%

（主な意見）

- ・入館料¥200 でこんなに楽しめていいのか、というぐらい充実の展示だった。解説文がわかりやすく、画家が絵を描いた背景を知ることができ、絵に対する理解が深まった。埼玉にゆかりのある画家を知ることができた。
- ・県民の日プログラム、子供向けの鑑賞ツアーに参加した。3 作品を親子で 3 組、私を含め 10 人程のグループで作品を鑑賞した。初めは言葉が少なかったお子さんも 3 作品を見終る頃にはすっかりリラックスして、色々なコメントが出て、楽しいツアーになった。ファシリテーターの個性も出ていて、よい時間を過ごすことが出来た。
- ・作品が作られた背景を知れると、より深く作品について思いをめぐらせることができ、面白かった。また、異なる作品の・共通点についても、新しい着眼点を提示されて興味深かった。企画展を見にきたのだが、MOMAS コレクションは展示物の・ジャンルが幅広く、企画展とはまた違った面白さがあった。

【MOMAS のとびらアンケート結果】

○満足度 98%（事前申込制のプログラムに限る。）

（主な意見）

- ・何を作ったらいいか考えることが一番難しく、日頃想像(創造)する機会がないことを体感した。他の人の作品、子供のユニークな考えに触れることができた。（保護者）
- ・ざいりょうがいっぱいあって、いろんなかざりをつけたりして、とても楽しかった。また親子でできるこういうイベントがあってほしい。（小2）

イ アンケートやインターネットで受け付けた質問や要望に対し、随時回答を行った。

ウ 広報紙「ソカロ (MUSEUM NEWS)」、「MUSEUM CALENDAR」及び企画展ポスターやちらし、学校向けの利用案内等を作成し、県内の情報拠点や全小・中・高、特別支援学校、全国の美術館等に配布した。

約 4,000 箇所年に 4 回配布

エ 美術館ホームページやX、Facebook、Youtube を活用して、企画展やMOMAS コレクション、その他の様々な催し物の内容や利用案内など、最新の美術館情報を発信した。

ホームページ	更新数 293 回、年間ページビュー数	936,724PV
X	更新数 286 回、総フォロワー数	28,693 人
Facebook	更新数 142 回、総フォロワー数	3,501 人
Youtube	更新数 0 回、総再生数	147,772 回

オ プレスリリースの配信、記者発表、プレス内覧会の実施など、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、WEB 等各種の媒体に向けて積極的なパブリシティを行った。

プレスリリース 3 回、報道発表 7 回、プレス内覧会 3 回、各種メディアによる記事化 210 件

カ Google Arts & Culture に参加し、当館のコレクションやストリートビューを発信した。

キ MOMAS コレクション及び企画展の開催にあわせ、JR 東日本大宮支社の協力を得て北浦和駅構内にポスターを掲出した。

ク JR 大宮駅東口「アイ大宮東ビジョン」にて、企画展「メキシコへのまなざし」の PR 動画を配信した。（2 月 1 日～3 月 31 日、15 秒/時間）



（ビジョンイメージ画像）

ケ 北浦和地区の自治会、商店会あて、企画展チラシの回覧や掲示を行った。

コ 県民の日にMOMASコレクション観覧料無料サービスを実施した。

サ 国立国会図書館によるデータベース「ジャパンサーチ」に収蔵作品の情報を提供し、一般に公開した。

シ 埼玉県が WEB 上に開設している「バーチャル埼玉」※に引き続き参加し、館の概要や展覧会情報、教育普及事業について随時掲載した。また、県教育委員会の SNS を通じて展覧会情報等を県民に提供した。

※埼玉県が、県の魅力発信や各種相談・交流等の行政サービスを提供するために運用するメタバース空間。アバターで空間へ入ると、3D で再現された埼玉の街並みや地形が広がり、リアルとバーチャルが融合した不思議な空間をいつ・どこからでも簡単に散策することができる。（<https://virtual-saitama.pref.saitama.lg.jp/>）

5 美術館の利用促進事業

(1) 北浦和公園ポリス・コンサート

北浦和公園の活用を通じて、美術館利用を促進するため、下記の事業に協力した。

期 日	内 容	場 所	客席	参加者数
6月8日（土）	「北浦和公園ポリス・コンサート」 出演：埼玉県警察音楽隊・カラーガード隊 主催：埼玉県警察本部広報課	北浦和公園	100 席	100人 見学400人

(2) ファミリー鑑賞会

ベビーカーの赤ちゃんや未就学児など、乳幼児のお子様と一緒にゆっくり作品を観覧していただけるよう、MOMASコレクション「ファミリー鑑賞会」を企画した。

期 日	内 容	参加者数
11月20日（水）	スタッフによる作品解説及び観覧サポート	11組 29人
2月20日（木）		18組 42人

6 子供向け事業

(1) 「MOMASのとびら」

主に土曜日に「MOMASのとびら」としてワークショップを開催した。

各ワークショップは、職員を中心に、授業連携をしている埼玉大学の学生や当館ボランティア「教育普及サポート・スタッフ」の協力を得て実施した。各回の定員があり参加者が限られてしまうため、プログラムによっては同じ内容を複数回行った。

	プログラム	概 要	期 日	内 容	定 員	参加者数
1	みる+つくる	MOMAS コレクションや企画展を鑑賞し、鑑賞をもとに工作などを行った。	5月18日 6月22日 10月 5日 10月26日	MOMASの形でオブジェを作ろう ※5月18日と同内容 世界にひとつ！積みわらをつくろう ※10月5日と同内容	各24人	19人 18人 19人 19人
2	親子クルーズ	MOMAS コレクションや企画展を親子で鑑賞し、鑑賞をもとに工作などを行った。	11月 2日 11月30日 2月 1日 2月 8日	積みわらのなかみは何だろう？ 君の中身はなんだろうな 折り染めでつくろう！カラフルポンチョ ※2月1日と同内容	各12組 24名	22人 20人 21人 19人
3	み～つけ！	幼児（4歳から）とその保護者の美術館デビューをねらい、美術館でのできごとを体いっばいに楽しむプログラムを行った。	6月 1日 6月29日 12月14日 12月21日	キラキラ枢機卿に大変身 ※6月1日と同内容 絵が変わる！変化するMOMAS ※12月14日と同内容	各8組 16名	14人 14人 16人 13人
4	工房	美術館ならではの作品づくりを楽しむプログラムを行った。	7月 6日 7月20日 1月25日 3月 1日 3月 8日	板から椅子ができた ※7月6日と同内容 ムギ ヶブーン もりもりアート ぐねぐねのび～る 生命の樹をつくろう！ ※3月1日と同内容	各24人	22人 18人 24人 21人 19人
5	彫刻あらいぐま	屋外彫刻を親子で洗って鑑賞するプログラムを行った。彫刻ボランティアが講師として活動した。	4月27日 5月11日 9月21日 9月28日	あらって見よう！彫刻作品	各6組 12名	12人 10人 6人 9人

	プログラム	概 要	期 日	内 容	定 員	参加者数
6	フリープログラム	天候・会場等に合わせ、誰でも気軽に参加できるプログラムを実施した。プログラムの内容や会場等に応じて、時間制で複数回実施した。	4月 6日 4月20日 5月 4日 10月12日 12月 7日 12月 8日 1月11日 2月15日	洗濯ばさみで絵を描こう！ キラキラ★カチカチスプーンワールド！ 風を描こう！・洗濯ばさみで絵を描こう！ お顔をトレース肖像画・カラフルラインで紙袋をつくろう！ カラフルラインで紙袋をつくろう！特別バージョン 洗濯ばさみで絵を描こう！（イオンモール川口） アート・ビンゴ キラキラ★カチカチスプーンワールド カクカクつなげて遊ぼう つなげて遊ぼう	40人 40人 40人 40人 40人 50人 40人 40人	45人 75人 268人 71人 75人 410人 171人 101人
7	サマー・アドベンチャー	夏休み期間限定の特別プログラムを行った。	8月 3日 8月10日 8月17日 8月24日	大きな布に手で描こう！ フリープログラムDAY 親子でガムテープのズック屋さん！ 手はおひざ〜じゃなくってなにしよう！？	24人 40人 48人 24人	17人 260人 48人 24人
8	もますまつり	県民の日に、誰でも参加できるプログラムを行った。	11月14日	わくわく鑑賞ツアー 洗濯ばさみで絵を描こう！ 風を描こう！	20～60人	342人

(2) 「夏休みMOMASステーション」

夏休みに来館した子供たちが美術館を効果的に楽しめるよう、ボランティアを活用して情報提供やアドバイス等を行った。

※小・中学校の夏休み期間に合わせて休館日を除き毎日開催（7/13～8/27、41日間） 利用者数 3,033人

(3) 「夏休みガイド・ツアー」

来館した小・中学生を主な対象として、夏休み期間中の午前中の30分間、常設展示室をサポート・スタッフが対話型の鑑賞を行いながら案内した。

実績：①7月27日（土）参加者 28人、②8月10日（土）参加者 68人

7 学校との連携

(1) 教員美術講座の開催

美術館を活用した鑑賞指導に関する講演会等を開催し、学校における美術館利用促進と鑑賞教育の充実を図った。

期 日	内 容	定 員	参加者数
8月 7日（水）	初級「多様な描画材体験を通じて創作活動をアップデート！」 （講師：石上城行／埼玉大学教育学部芸術講座 教授）	24人	21人
8月 8日（木）	中級「造形素材の加工体験を通じて創作活動をアップデート！」 （講師：石上城行／埼玉大学教育学部芸術講座 教授）	24人	19人

(2) 埼玉大学との授業連携・他大学との協力

埼玉大学の学生が、美術館の教育普及事業に参画した場合、その活動を大学の単位として認定する協定を継続。
また、他大学にも様々な教育普及事業への協力を依頼した。

(3) 博物館実習生の受入れ

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、学芸員志望の学生向けに実習を行った。実習期間は合同実習（7月下旬の4日間）と個別実習（7月末から8月末までの間の3日間）の合計7日間で、14大学18人を受け入れた。（定員20人）

個別実習：7月20日～8月31日、合同実習：7月16日～7月19日

実習では主に以下の内容をもとにカリキュラムを組んだ。

- ① 美術館全般について（学芸、管理、施設見学等）
- ② MOMAS コレクション（常設展）について
- ③ 企画展の概要・実務・関連事業等について
- ④ 美術資料の収集と保存について
- ⑤ 作品・図書等の取り扱いについて
- ⑥ 学校・教育普及事業の概要・学校との連携・「MOMASのとびら」・ボランティア制度について
- ⑦ 広報と刊行物について

(4) 学校を含めた団体利用の受入れ

以下の7つの内容を組み合わせて鑑賞・体験学習を行った。

- ① 1階展示室「MOMASコレクション」案内
- ② 2階展示室「企画展」案内
- ③ かならず出会える作品たち（屋外彫刻）案内
- ④ グッドデザインの椅子鑑賞
- ⑤ ワークショップ「洗濯ばさみで絵を描こう！」体験
- ⑥ アートカードを使った鑑賞
- ⑧ バックヤード見学

実績：35団体 1,401人

(5) 学校への授業協力

以下の内容の他、児童生徒の実態や授業のねらい等に合わせた出張授業を行った。

- ① 「知ってる？ピカソ！」
- ② 「日本画って何だろう？」
- ③ 「みつめよう！シャガールさんのこの思い」
- ④ 「見て★座って！お気に入りの椅子をみつけよう！」
- ⑤ 「洗濯ばさみで絵を描こう！」

実績：75校 6,959人

(6) 研修協力

依頼に応じて、各学校の校内研修や市町村単位での図工・美術の授業研究において講義等を行った。

実績：11件

(7) 学校等への複製画やアートカードの貸し出し

当館収蔵作品の複製画や複製パネル、アートカードなどの教材貸出を学校に貸し出した。

実績：30件 111セット

(8) 「ミュージアム・キャラバン」の実施

県内の学校にアーティストと当館職員を派遣してワークショップを行い、鑑賞や制作活動を通して児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えるための授業を実施した。

テーマ：「丸シールでいろいろな世界を描こう！」 講師 大村雪乃（現代美術家）

・1月24日（金）新座市立栄小学校、参加者 100人 / ・1月30日（木）さいたま市立河合小学校、参加者 177人

(9) 公募プログラム「みつめて、かんじて、たべてみて！-作品のみかた・味わいかた」の開催

美術館における教育普及活動の価値をアピールし、学校連携の強化・継続を図るため、県内の児童生徒を対象とした公募プログラムを実施した。

令和6年度は、4点の課題作品から1点を選び鑑賞し、作品からわき上がった「食」のイメージを描くプログラムを開催した。

応募作品から10点の受賞作品を選考し、表彰式及び総合グランプリの作品をもとに創作した料理を試食するイベントを開催した。

（表彰式及び試食イベントの様子は美術館ホームページでも紹介。<https://pref.spec.ed.jp/momas/kouboten>）

対象：県内の小、中、高校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の児童生徒（個人または4人以下のグループ）

作品受付期間：7月19日（金）～9月20日（金）

応募作品総数：217点

課題作品：①因藤壽《こんばんは》1951年

②ジャン・アルプ《バラを食べるもの》1963年

③宮島達男《Number of Time in Coin-Locker》1996年

④フィリップ・スタルク《ラ・マリー》製品化：1998年

作品展示期間：10月29日（火）～1月13日（月・祝）※1階ギャラリーに展示

表彰式／試食イベント：11月10日（日）

8 ボランティア活動

(1) 美術館サポーター

常設展の解説ガイドを行うボランティアとして平成12年に発足し、当館が月1回開催する研修会へ参加するとともに、自主的な研修を重ねている。主な活動としては、「MOMASコレクション」開催中のほぼ毎日、午後2時から30分程度、来館者の鑑賞を支援するため作品解説を行った。登録者数：25人（3月31日現在）

(2) 教育普及サポート・スタッフ

「夏休みMOMASステーション」、ツアーガイド、「MOMASのとびら」等の教育普及事業をサポートするボランティア・スタッフとして活動している。教員や美術教育に関心を持つ学生等が参加し、毎年6月中旬から7月初めに行う研修を経て、1年間の任期で活動を行った。登録者数：74人（3月31日現在）

(3) 彫刻ボランティア

平成29年度より、土曜日の子供向け普及事業「MOMASのとびら」にて、彫刻洗浄プログラムを行う際の外部講師として活動している。登録者数：8人（3月31日現在）

9 「椅子」の有効活用

国内外のグッド・デザインの椅子を、来館者に自由に鑑賞してもらう。これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせ、定期的に入れ替えを行い、常時20脚～30脚程度を館内の各所に配置するとともに、当館ホームページの「今日座れる椅子」コーナーで紹介した。また、学校への授業協力等でも活用した。

10 一般展示室の利用状況

(令和7年3月31日現在)

No.	展 覧 会 名	開催期間 R6年度		開催 日数 (日)	利用室	分 野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
1	第13回五彩展	4月2日	4月7日	6	3	水彩、油彩、コラージュ	35	472	78
2	apipoのペン画展	4月2日	4月7日	6	4	ペン画、アクリル画	100	808	134
3	第52回主体美術武蔵野作家展	4月9日	4月14日	6	2・3	油彩	68	510	85
4	第39回溪水会展	4月9日	4月14日	6	4	日本画、水彩、油彩、版画	48	469	78
5	第18回フォト・トルトゥーガ写真展	4月16日	4月21日	6	2	写真	60	513	85
6	群炎埼玉支部展	4月16日	4月21日	6	3	水彩、油彩、工芸、写真、創作人形	34	493	82
7	ヨシズミトシオ展 ありあるクリエイションズ創立20周年記念	4月16日	4月28日	12	4	油彩、版画、水墨画	40	913	76
8	第47回女流工芸展in埼玉	4月23日	4月28日	4	1	工芸	155	1,050	262
9	第9回栗田 ひさし・梨伽絵画二人展	4月23日	4月28日	6	3	日本画、水彩、アクリル、水墨画	61	692	115
10	第27回埼玉二科展	4月30日	5月5日	6	1～4	水彩、油彩、彫刻、デザイン	107	997	166
11	第72回埼玉県美術展覧会	5月29日	6月20日	20	1～4	日本画、油彩、彫刻、工芸、書、写真	3,157	20,302	1,015
12	第43回埼玉県高等学校写真連盟写真展	7月2日	7月7日	6	1	写真	635	1,046	174
13	第29回基の会展	7月2日	7月7日	6	2	油彩、ミクストメディア	17	354	59
14	第34回白の会洋画展	7月2日	7月7日	6	3	油彩	22	362	60
15	第22回埼玉独立展	7月9日	7月14日	6	1	水彩、油彩、アクリル等	67	682	113
16	2024埼玉モダンアート展	7月9日	7月14日	6	2・3	水彩、油彩、版画、彫刻、工芸	34	616	102
17	ヤクモタロウ個展「本能-instinct-」(Taro Yakumo Solo Exhibition「instinct」)	7月9日	7月14日	6	4	油彩、アクリル画	21	418	69
18	第50回埼玉二紀展	7月16日	7月21日	6	1～4	油彩、彫刻	98	878	146
19	岡部文明のサーカス展－魅了され追い求めた50年－	7月23日	8月4日	12	1～4	水彩、油彩、ドローイング	137	1,543	128
20	晨翔会書展	8月6日	8月11日	6	1～2	書	350	1,144	190
21	第58回埼玉平和美術展	8月13日	8月18日	6	1～4	日本画、水彩、油彩、版画、写真、書等	392	1,276	212
22	創立70周年記念第36回墨芳展併催第10回墨芳学生展	8月21日	8月25日	5	1、3	書	436	836	167

No.	展 覧 会 名	開催期間 R6年度		開催 日数 (日)	利用室	分 野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
23	新洋画会埼玉支部展	8月20日	8月25日	6	4	日本画、水彩、油彩、ドローイング、工芸	31	704	117
24	tuk×line	8月27日	9月1日	6	4	油彩、ドローイング	80	330	55
25	第37回埼玉創元展（公募）	9月3日	9月8日	6	1	日本画、水彩、油彩、版画	55	632	105
26	第62回公募新構造埼玉展	9月3日	9月8日	6	2～4	水彩、油彩、ドローイング、版画、彫刻、写真	65	1,433	238
27	埼玉県芸術文化祭2024地域文化事業第67回埼玉書道展（併催・高等学校臨書の部）	9月13日	9月15日	3	1～4	書	738	1,201	400
28	第41回埼玉県写真サロン	9月17日	9月22日	6	1	写真	423	1,125	187
29	美術協会純展・埼玉支部展	9月17日	9月22日	6	2	日本画、水彩、油彩、ドローイング、版画	43	561	93
30	ポローニア展	9月17日	9月22日	6	3	油彩、工芸、アクリル画	38	416	69
31	第14回ニッコールクラブさいたま支部写真展	9月17日	9月22日	6	4	写真	57	843	140
32	第16回フォトサークル・オプト写真展	9月24日	9月29日	6	2	写真	238	644	107
33	フォトグループWAVE第38回写真展	9月24日	9月29日	6	3	写真	85	582	97
34	2024第10回橡の会展	9月24日	9月29日	6	4	日本画、ミクストメディア、アクリル	54	423	70
35	公募第56回第一美術協会埼玉支部展	10月1日	10月6日	6	1	水彩、油彩、彫刻、工芸、水墨画	111	909	151
36	第57回埼玉三軌展	10月1日	10月6日	6	2～3	日本画、水彩、油彩、工芸	62	637	106
37	日本リアリズム写真集団浦和支部第12回写真展	10月1日	10月6日	6	4	写真	92	512	85
38	第20回記念水彩連盟埼玉西支部展	10月8日	10月13日	6	1	水彩	46	711	118
39	第25回地平展	10月8日	10月13日	6	2	日本画、水彩、油彩、ドローイング、彫刻等	58	631	105
40	第39回アート現字展	10月8日	10月13日	6	3	油彩、アクリル等	53	487	81
41	第40回溪水会展	10月8日	10月13日	6	4	日本画、水彩、油彩、版画、水墨画等	41	604	100
42	現代中国芸術国際交流展第6回目	10月15日	10月20日	6	2	日本画、水彩、油彩、書	26	724	120
43	第33回旺玄会埼玉支部展	10月15日	10月20日	6	3	日本画、水彩、油彩、版画、アクリル等	41	448	74
44	全日本写真連盟浦和支部写真展	10月15日	10月20日	6	4	写真	27	330	55

No.	展 覧 会 名	開催期間 R6年度		開催 日数 (日)	利用室	分 野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
45	第45回太平洋埼玉展	10月22日	10月27日	6	1	水彩、油彩、版画、染織	89	572	95
46	悠友展	10月22日	10月27日	6	2～3	水彩、油彩	52	471	78
47	ヨシズミトシオ展 ありあるクリエイションズ藝術企画	10月22日	11月3日	12	4	油彩、版画、水墨画	42	815	67
48	キルトリーダーズ埼玉パッチワークキルト作品展2024	10月29日	11月3日	6	1	パッチワークキルト	256	911	151
49	現代アート「実験02展」	10月29日	11月3日	6	2	水彩、油彩、版画、彫刻、工芸	67	526	87
50	第42回キヤノンフォトクラブ浦和写真展	10月29日	11月3日	6	3	写真	44	457	76
51	2024 C A F ネビュラ展	11月6日	11月17日	11	1～4	日本画、水彩、油彩、版画、彫刻等	102	3,145	285
52	第63回高校書道展	11月20日	11月24日	5	1～4	書	756	850	170
53	第67回埼玉県高校美術展	11月27日	12月1日	5	1～4	日本画、水彩、油彩、ドローイング等	935	4,294	858
54	第15回埼玉県障害者アート企画展	12月4日	12月8日	5	1～2	水彩、油彩、工芸等	600	2,045	409
55	2024阿佐見昭彦写真展 Arch重なり合う記憶の継承	12月3日	12月8日	6	3	写真	38	1,021	170
56	第3回グループ・エスポワール絵画展	12月3日	12月8日	6	4	水彩、油彩	36	629	104
57	第58回全日本書道芸術展	12月10日	12月15日	6	1～2	書	167	576	96
58	紙画展～和紙で描く紙画の世界～	12月10日	12月15日	6	3	和紙ちぎり絵	37	619	103
59	何気ない日々の一期一会（Ⅱ）	12月10日	12月15日	6	4	写真	45	433	72
60	第59回「郷土を描く児童生徒美術展」	12月21日	12月22日	2	1～4	水彩	120	835	417
61	第27回凜の会展	1月7日	1月12日	6	1～4	水彩、油彩、版画、彫刻	157	544	90
62	「足尾」一風土円環 鈴木喜美子展	1月14日	1月19日	6	1～3	油彩	84	1,292	215
63	手編み作品展	1月14日	1月19日	6	4	手編み	97	663	110
64	文教大学教育学部学校教育課程美術専修卒業制作展	1月21日	1月26日	6	1	水彩、油彩、工芸、彫刻	44	604	100
65	文教大学美術専修OB・OG展	1月21日	1月26日	6	4	水彩、油彩、ドローイング等	26	460	76
66	第48回埼玉県国展	1月28日	2月2日	6	1	油彩 写真	65	767	127

No.	展 覧 会 名	開催期間 R6年度		開催 日数 (日)	利用室	分 野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
67	第44回野美展	1月28日	2月2日	6	2	日本画 油彩 彫刻 工芸	56	752	125
68	小澤基弘 魂の叫びの軌跡	1月28日	2月2日	6	3～4	油彩 ドローイング アクリル	1,012	674	112
69	令和6年度埼玉県立美術系高校 作品展・卒業制作展（五校合同展）	2月5日	2月9日	5	1～4	油彩 彫刻 写真	800	2,616	523
70	第102代大東文化大学書道部校外展	2月12日	2月16日	5	1～2	書	70	336	67
71	第5回蒼騎会埼玉支部展	2月11日	2月16日	6	3	水彩 油彩 ドローイング	30	597	99
72	アートでつながる作品展 第2回ファムスフェスティバル2025	2月11日	2月16日	6	4	水彩 油彩 工芸	75	811	135
73	女子美術大学同窓会第15回彩の会	2月18日	2月23日	6	1	水彩 油彩 彫刻 工芸 写真	138	892	148
74	第14回関口健司展	2月18日	2月23日	6	2	水彩	25	402	67
75	天使の旅～中村徳男・水彩画展	2月18日	2月23日	6	4	水彩	43	935	155
76	埼玉大学教育学部美術・図画工作分野 卒業制作展・有志展「彩展」	2月25日	3月2日	6	1	油彩 ドローイング 彫刻 写真	17	647	107
77	第21回ネーチャーフォト支部写真展	2月25日	3月2日	6	4	写真	64	535	89
78	第50回記念埼玉書道三十人展併催俊英展	3月4日	3月9日	6	1～4	書	80	3,037	506
79	第12回埼玉植物画の会作品展	3月11日	3月16日	6	2	水彩	149	1,101	183
80	第48回埼玉現展	3月11日	3月16日	6	3～4	日本画 油彩 写真	75	1,263	210
81	TAKARABUNE2025風のカタチ空のキオク	3月19日	3月23日	5	1	水彩 油彩 工芸 写真 ミクストメディア	20	926	185
82	第30回彩の国さいたまきりえ展	3月18日	3月23日	6	2	切り絵	109	1,286	214
83	木藤恭二郎・安原竹夫二人展	3月18日	3月23日	6	3	ミクストメディア	21	512	85
84	彩の国写真倶楽部第20回写真展	3月18日	3月23日	6	4	写真	38	879	146
85	速水敬一郎東京学芸大学退任記念展	3月25日	3月30日	6	2	日本画	24	1,007	167
86	新芸術協会第14回東京WORKS展	3月25日	3月30日	6	3	水彩 油彩 版画 工芸	43	541	90
87	グラデーション展2025	3月25日	3月30日	6	4	水彩 油彩 ドローイング 版画	40	703	117
		公開期間の日数		261日			合計	94,242人	361人
		県展を除いた日数		241日			県展を除いた合計	73,940人	306人

埼玉県立近代美術館 一般展示室利用状況（年度別）

令和7年3月31日現在

年度		一 般 展 示 室					利用件数
		1 (612.8㎡)	2 (231.5㎡)	3 (138.9㎡)	4 (161.3㎡)	計 (1,144㎡)	
元	利用可能週	43	43	43	43	172	86件
	利 用 週	38	34	35	40	147	
	利 用 率	88.4%	79.1%	81.4%	93.0%	85.5%	
2	利用可能週	39	39	39	39	156	40件
	利 用 週	16	12	15	22	65	
	利 用 率	41.0%	30.8%	38.5%	56.4%	41.7%	
3	利用可能週	50	50	50	50	200	61件
	利 用 週	29	25	24	28	106	
	利 用 率	58.0%	50.0%	48.0%	56.0%	53.0%	
4	利用可能週	46	46	46	46	184	85件
	利 用 週	37	39	39	42	157	
	利 用 率	80.4%	84.8%	84.8%	91.3%	85.3%	
5	利用可能週	46	46	46	46	184	87件
	利 用 週	38	39	35	42	154	
	利 用 率	82.6%	84.8%	76.1%	91.3%	83.7%	
6	利用可能週	46	46	46	46	184	87件
	利 用 週	38	40	41	44	163	
	利 用 率	82.6%	87.0%	89.1%	95.7%	88.6%	

※利用状況には県展を含む（R2及びR3は、コロナ禍のため、県展の実施なし）。

1 1 令和6年度入館者数一覧

	館全体	展 示 事 業						普 及 事 業				貸館事業	
		MOMAS コレクション	企 画 展 示					企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	資料閲覧室	一 般 展示室	埼玉県 美術 展覧会
			アブソリュート・ チェアーズ	吉田克朗展	没後30年 木下佳通代	メキシコへの まなざし	企画展計						
開 催 期 間	4/1(月) ～ 3/31(月)	4/1(月) ～ 3/31(月)	4/1(月) ～ 5/12(日)	7/13(土) ～ 9/23(月)	10/12(日) ～ 1/13(月)	2/1(土) ～ 3/31(月)						4/2(火) ～ 3/30(日)	5/29(水) ～ 6/20(木)
日 (日) 数	307	291	38	66	74	51	229	27	10	64	149	241	20
親 覧 者 数 利 用 者 数	189,714	39,573	6,190	8,863	6,365	7,184	28,602	1,414	220	2,437	2,341	73,940	20,302
1 (人) 日 当 た り 平 均	617	135	162	134	86	140	124	52	22	38	15	306	1,015
有 料	一般個人	11,063	3,339	3,601	2,526	3,847	13,313						
	一般団体	2,184	348	425	433	438	1,644						
	大高個人	888	350	361	235	254	1,200						
	大高団体	73	13	15	70	29	127						
	(人) 合 計	14,208	4,050	4,402	3,264	4,568	16,284						
無 (人) 料		25,365	2,140	4,461	3,101	2,616	12,318						

月別入館者数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	(人) 合計
入 館 者 数	14,617	15,842	22,931	12,556	14,068	15,293	14,039	17,486	13,792	12,497	16,964	19,629	189,714
(令和5年度)	13,314	13,105	21,028	9,171	14,874	13,763	13,195	17,611	10,203	11,385	12,309	18,018	167,976

12 令和6年度 決算の概要

【支 出】

(単位：千円)

事 業 名	予算額 A	決算額 B	執行残 A－B	R5 決算額 C	増減額 (R6-R5) D = B - C	増減率 D / C
企画展事業費	46,399	45,032	1,367	42,839	2,193	5.1%
美術館管理運営費	65,576	64,445	1,131	67,585	△ 3,140	△ 4.6%
教育財産管理費	13,911	8,217	5,694	1,400	6,817	486.9%
事務局費〔経常費〕	73,908	72,050	1,858	69,039	3,011	4.4%
合 計	199,794	189,744	10,050	180,863	8,881	4.9%

【収 入】

(単位：千円)

区 分	予算額 A	決算額 B	増減額 A－B	R5 決算額 C	増減額 (R6-R5) D = B - C	増減率 D / C
観 覧 料 収 入	16,364	18,619	2,255	17,374	1,245	7.2%
一般展示室等使用料	13,312	13,373	61	12,165	1,208	9.9%
行政財産使用料	4,086	4,150	64	4,238	△ 88	△ 2.1%
図録等売払収入	4,137	4,935	798	4,254	681	16.0%
助 成 金	-	-	-	-	-	-
そ の 他	734	923	189	643	280	43.5%
一 般 財 源	161,161	147,744	△ 13,417	142,189	5,555	3.9%
合 計	199,794	189,744	△ 10,050	180,863	8,881	4.9%

Ⅱ 令和7年度 事業実施状況

1 常設展示事業

(1) MOMASコレクション（常設展）の開催

年間を4つの会期に分け、会期毎に名品を核とした「セレクション」コーナーや多彩なテーマを掲げたコーナーを設定し、作品の魅力を紹介する（一部、借用作品を含む）。（※有料観覧者数には、企画展観覧券付属の招待券で入場した人数を含む。）

内 容	展示 作品数	期 間	観覧者数
○「セレクション」 ピカソほか、MOMASコレクションの名品を紹介。 ○「特集：デビュー50周年記念 山本容子」 山本容子の初めての個展から、今年で50周年を迎える。デビュー当時を振り返りつつ、1970年代後半から80年代半ばまでの初期作品を紹介。	85点	自 6月 7日（土） 至 8月31日（日） （72日間）	6,216人 1日当たり129人 うち有料観覧者数 3,385人 1日当たり77人 （7月31日現在：44日）
○「セレクション」 フジタほか、MOMASコレクションの名品を紹介。 ○「アーティストの絵本」 元永定正やタイガー立石の版画作品と絵本をあわせて展示する。 ○「MOMASの動物園」 動物をモチーフにした作品が大集合！ 動物に向けた作家の眼差しや人間と動物の関係を読み解く。		自 9月6日（土） 至 11月30日（日） （78日間）	
○「セレクション」 大正期を中心とする日本近代美術の動向を、当時の作家たちに刺激を与えた西洋美術の作品を交えて紹介。 ○「MOMASのゆるい絵・素朴な絵」 日本の近代絵画に見られる微笑ましく可笑しい「ゆるい」表現をテーマにコレクションを紹介。		自 12月6日（土） 至 令和8年 3月1日（日） （71日間）	

内 容	展示 作品数	期 間	観覧者数
○「セレクション」 シニャックほか、MOMAS コレクションの名品を紹介。 ○「さいきんのたまもの」 近年新たに美術館のコレクションに仲間入りした作品を紹介。 ○「頭／体」 美術を通して表現される肉体の神聖さや物質性、人間の理性と本能をテーマにコレクションを紹介。		自 令和8年 3月7日（土） 至 5月31日（日） （71日間）	

(2) アーティスト・トークの開催

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
7月27日（日）	アーティスト・トーク	山本容子（出品作家）、聞き手：担当学芸員	80人	88人

(3) コレクション・トークの開催

MOMAS コレクションで展示中の収蔵作品から1点を選んで、当館学芸員が解説する。（年10日程度）

	期日	担当学芸員	解説作品	参加者数
①	4月27日（日）	佐藤学芸員	アンディ・ウォーホル《KIKU 3》	15人
②	6月28日（土）	篠原優学芸員	上村次敏《サン・マルコ広場》	17人
③	7月 5日（土）	平野副館長	山本容子《Papa's and Mama's》	38人
④	8月24日（日）	大越学芸員	斎藤三郎《敗戦の自画像》	
⑤	9月21日（日）	吉岡主任学芸員	フェルナン・レジェ《誕生日》	
⑥	11月 8日（土）	佐伯学芸員	小松崎邦雄《五月の花嫁》	
⑦	12月20日（土）	菊地学芸員		
⑧	1月	西尾学芸員		
⑨	2月	鳴原学芸員		
⑩	3月	大浦主任学芸員		

※12月以降の解説作品については、調整中

2 企画展示事業

(1) 企画展の開催

特定のテーマのもとに、国内外の作品を年4回展示する。

展 覧 会 名	内 容	展示 作品数	期 間	観覧者数
メキシコへの まなざし	1950年代の日本では、メキシコ美術が盛んに紹介され、多くの美術家はその鮮やかな色彩や力強い造形表現に魅了された。当館では、開館以来メキシコの近現代美術を収集してきたが、その出発点には、50年代のメキシコ美術に対する熱いまなざしがあったと考えられる。本展では、メキシコに憧れた日本の美術家たちの足跡と、当館のコレクションの双方から、戦後日本がメキシコ美術をどのように捉えたのかを考察する。	148 点	自 令和7年 2月1日（土） 至 5月11日（日） （88日間/ R7年度・37日間）	R7 年度 6,525 人 1 日あたり 413 人 うち有料観覧者数 4,197 人 1 日当たり 113 人 R6・R7 計 13,709 人
Nerhol 種蒔き と鳥 Misreading Righteousness	Nerhol（ネルホル）は、グラフィックデザイナーの田中義久（1980-）と彫刻家の飯田竜太（1981-）により 2007 年に結成されたアーティストデュオ。連続写真や映像から抽出した画像の出力紙の束を彫り刻む独自の制作手法を基軸としつつ、その観測範囲を他者や他領域と接合し、時空間を超えた因果関係の複雑な絡み合いや、不可視化された物語までも語りうる豊かな表現へと深化させてきた。本展は、新作・未発表作を中心に構成する。	94 点	自 7月12日（土） 至 10月13日（月・祝） （84日間）	2,508 人 1 日あたり 139 人 うち有料観覧者数 1,303 人 1 日あたり 72 人 （7月31日現在） 観覧者見込 約 11,900 人

展 覧 会 名	内 容	展示 作品数	期 間	観覧者見込
野島康三と斎藤与里	浦和に生まれた野島康三は、写真家として活動する一方、画廊経営者やコレクターなどとして同時代美術を支えた。加須出身の斎藤与里は、洋画を学んだのち渡仏。帰国後は画家・評論家として西洋の新しい芸術思潮を広めながら独自の画風を追究した。本展は、埼玉県ゆかりの二人の作家の足跡を辿るとともに、関連作家の作品や資料も交え、両者が美術に注いだ眼差しに迫る。	約 200 点	自 11月1日（土） 至 令和8年1月18日 （日） （66日間）	約 9,300 人
コレクション の舞台裏	1982 年に開館した埼玉県立近代美術館は、継続的な収集活動により、現在 4,000 点以上の作品を収蔵している。この展覧会では、その中から学芸員が各々の視点で作品を選び、リサーチの成果をもとに展示する。学芸員の主要な仕事のひとつである「収蔵作品の調査研究」を通じて、作品や資料のさらなる解明を試み、コレクションの新たな見方や、通常はなかなかご覧いただけない側面を紹介する。	未定	自 令和8年2月7日 （土） 至 5 月 10 日（日） （82 日間/ R7 年度・46 日間）	約 6,500 人 （R7 年度内見込）

(2) アーティスト・プロジェクトの開催

MOMAS コレクションや企画展の枠を超え、現在活躍しているアーティストを紹介する展示プログラムとして開催する。

展 覧 会 名	内 容	展 示 作品数	期 間	観 覧 者 見 込
アーティスト・プロジェクト#2.09 江頭誠	江頭誠は戦後日本で普及した花柄の毛布を用いて、独自の立体作品や展示空間を創り出すアーティスト。古い家具や既製品を毛布で包み込むことで、有機的なフォルムを立ち上げるとともに、物や空間が持つ記憶をゆるやかに呼び起こしていく。本展では新作を交えたインスタレーションを中心に紹介する。	未定	自 令和8年 2月 7日（土） 至 5月10日（日） (82 日間/ R7年度・46日間)	

(3) 関連事業等の開催

企画展について理解を深めるため、関連事業等を開催する。

ア Nerhol 種蒔きと鳥 Misreading Righteousness

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
7月20日（日）	アーティスト・トーク	Nerhol（田中義久、飯田竜太）、聞き手：大浦周（当館学芸員）	80人	138人
8月17日（日）	ワークショップ（子ども向け）「動画を作品にしてみよう」	Nerhol（飯田竜太）	15人	19人
8月17日（日）	ワークショップ（大人向け）「同じ作業を繰り返し、作品を作ってみよう」	Nerhol（飯田竜太）	20人	18人
9月12日（金）	対談	Nerhol（田中義久、飯田竜太）× 金井直（信州大学人文学部教授）	80人	

イ 野島康三と斎藤与里

期 日	内 容	講 師 等	定 員	参加者数
12月7日（日）	講演会「写真家・野島康三 静かなイノベーター」	光田由里（多摩美術大学アートアーカイヴセンター 所長・大学院教授）	80人	
1月11日（日）	ワークショップ：銀塩写真の制作体験 （大人向け）「モノクロームのてざわり」	佐野陽一（美術家）	10人	
1月12日（月・祝）	ワークショップ：銀塩写真の制作体験 （子ども向け）「ひかりのえ」	佐野陽一（美術家）	10人	

※企画展「コレクションの舞台裏」は調整中。

(4) ギャラリー・トークの開催

より充実した鑑賞の機会とするため、担当学芸員による展示解説を実施する。

展覧会名	期 日	参加者数	備 考
メキシコへのまなざし	4月12日（土） 5月4日（日・祝）	42人 76人	
Nerhol 種蒔きと鳥 Misreading Righteousness	8月31日（日） 9月20日（日）※		※手話通訳、文字表示付き
野島康三と斎藤与里	11月9日（日） 12月14日（日）※		※手話通訳、文字表示付き

※企画展「コレクションの舞台裏」は調整中。

3 美術作品収集事業

近現代美術を対象に、本県にゆかりのある作家及び本県の美術界に影響を与えた国内外の作家の作品を収集する。

4 一般向け普及事業

(1) ミュージアム・レクチャーの開催

多くの方々に美術に親しんでもらうため、レクチャーを含むプログラムを開催する。内容については当館の展覧会や収蔵作品と必ずしも結び付けず、聴講者が今後様々な場で作品を鑑賞する時や、制作を行う際の刺激となることをねらいとする。

期 日	内 容	講 師	定 員	参加者数
調整中	調整中	調整中		

(2) ミュージアム・シアターの開催

映画や音楽、パフォーマンスといった、展覧会ではなかなか紹介できない表現について取り上げるプログラムを開催する。

期 日	内 容	講 師	定 員	参加者数
11月24日(月・祝)	<舞踏と美術> 1. ダンス・パフォーマンス「From there.」 2. 講演会「バレエ・スエドワ解散100周年記念 バレエ・スエドワのすべて(仮)」	1. 出演：平原慎太郎ほか 2. 講師：芳賀直子（舞踊史研究家）	1. 立見での鑑賞 2. 80人	

※年度内に別のプログラムを開催予定。

(3) 一般団体案内

企画展やMOMASコレクション展を観覧する2人以上の団体を対象に、スライドによる案内（「スライド・トーク」）を行う。
内容は、展覧会の見どころや作品解説、美術館全体の案内、屋外彫刻の解説など、希望に応じた内容・時間で対応する。

なお、視覚障がい者を対象としたガイドや講座も受け付けている。

ス ラ イ ド ・ ト ー ク : 8 団 体 93 人 (7 月 31 日 現 在)

視覚障害者鑑賞ガイドプログラム : 2 団 体 4 人 (7 月 31 日 現 在)

(4) 資料閲覧室の運営

国内外の美術図書、雑誌を公開するとともに、美術情報の提供や資料相談を行う。

開室日時 : 火・木・土曜日の 13 時～17 時

資料相談数 : 52 件 (7 月 31 日 現 在)

利 用 者 数 : 920 人 (7 月 31 日 現 在)

(5) 広聴広報活動

ア 来館者の意見を美術館活動に反映していくため、受付にアンケートコーナーを設置する。

併せて、企画展、MOMASコレクション、普及関連の講座等でアンケート調査を実施する。

イ アンケートやインターネットで受け付けた質問や要望に対し、随時回答を行う。

ウ 広報紙「ソカロ (MUSEUM NEWS)」、「MUSEUM CALENDAR」及び企画展ポスターやちらし、学校向けの利用案内等を作成し、県内の情報拠点や全小・中・高、特別支援学校、全国の美術館等に配布する。

約 4,000 箇所年に 4 回配布予定

エ 美術館ホームページや X、Facebook、Youtube を活用して、企画展やMOMASコレクション、その他の様々な催し物の内容や利用案内など、最新の美術館情報を発信する。

オ プレスリリースの配信、記者発表、プレス内覧会の実施など、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、WEB 等各種の媒体に向けて積極的なパブリシティを行う。

カ Google Arts & Culture に参加し、当館のコレクションやストリートビューを発信する。

キ MOMAS コレクション及び企画展の開催にあわせ、JR 東日本大宮支社の協力を得て北浦和駅構内にポスターを掲出する。

ク 北浦和地区の自治会、商店会あて、企画展チラシの回覧や掲示を行う。

ケ 県民の日にMOMAS コレクション観覧料無料サービスを実施する。

コ 国立国会図書館によるデータベース「ジャパンサーチ」に収蔵作品の情報を提供し、一般に公開する。

サ 埼玉県が WEB 上に開設している「バーチャル埼玉」※に引き続き参加し、館の概要や展覧会情報、教育普及事業について随時掲載する。

また、県教育委員会の SNS を通じて展覧会情報等を県民に提供する。

※埼玉県が、県の魅力発信や各種相談・交流等の行政サービスを提供するために運用するメタバース空間。アバターで空間へ入ると、3D で再現された埼玉の街並みや地形が広がり、リアルとバーチャルが融合した不思議な空間をいつ・どこからでも簡単に散策することができる。(https://virtual-saitama.pref.saitama.lg.jp/)

5 美術館の利用促進事業

(1) 北浦和公園ポリス・コンサート

北浦和公園の活用を通じて、美術館利用を促進するため、下記の事業に協力した。

期 日	内 容	場 所	客席	参加者数
6月7日（土）	「北浦和公園ポリス・コンサート」 出演：埼玉県警察音楽隊・カラーガード隊 主催：埼玉県警察本部広報課	北浦和公園	100 席	100人 見学500人

(2) ファミリー鑑賞会

ベビーカーの赤ちゃんや未就学児など、乳幼児のお子様と一緒にゆっくり作品を観覧していただけるよう、MOMASコレクション「ファミリー鑑賞会」を企画する。

期 日	内 容	参加者数
調整中	スタッフによる作品解説及び観覧サポート	

6 子供向け事業

(1) 「MOMASのとびら」

主に土曜日に「MOMASのとびら」としてワークショップを開催する。

各ワークショップは、職員を中心に、授業連携をしている埼玉大学の学生や当館ボランティア「教育普及サポート・スタッフ」の協力を得て実施する。各回の定員があり参加者が限られてしまうため、プログラムによっては同じ内容を複数回行う。

	プログラム	概 要	期 日	内 容	定 員	参加者数
1	みる+つくる	MOMASコレクションや企画展を鑑賞し、鑑賞をもとに工作などを行う。	7月 5日 7月19日 3月 7日 3月14日	作品をみつめて…額縁をつくろう！ ※7月5日と同内容 － 調整中 － 〃	各24人	17人 23人
2	親子クルーズ	MOMASコレクションや企画展を親子で鑑賞し、鑑賞をもとに工作などを行う。	10月 4日 10月25日 2月14日 2月21日	－ 調整中 － 〃 〃 〃	各12組 24名	
3	み～つけ！	幼児（4歳から）とその保護者の美術館デビューをねらい、美術館のできごとを体いっぱい楽しむプログラムを行う。	5月31日 6月14日 12月 6日 12月13日	キラキラ枢機卿に大変身！ ※5月31日と同内容 － 調整中 － 〃	各8組 16名	15人 14人

	プログラム	概 要	期 日	内 容	定 員	参加者数
4	工房	美術館ならではの作品づくりを楽しむプログラムを行う。	4月19日 11月 8日 11月29日 1月24日	ムギユ ザブーン もりもりアート — 調整中 — 〃 〃	各24人	19人
5	彫刻あらいぐま	屋外彫刻を親子で洗って鑑賞するプログラムを行った。彫刻ボランティアが講師として活動する。	4月26日 5月10日 9月20日 9月27日	「あらって見よう！彫刻作品」	各6組 12名	12人 雨天中止
6	フリープログラム	天候・会場等に合わせ、誰でも気軽に参加できるプログラムを実施した。プログラムの内容や会場等に応じて、時間制で複数回実施する。	4月 5日 6月 7日 7月26日 7月27～31日 9月13日 10月11日 12月20日 1月10日 2月 7日 3月21日	洗濯ばさみで絵を描こう！ MOMASのかたちでカラフルキャンドルをつくろう！お顔をトレース「肖像画」 丸シールでいろいろな世界を描こう！ 丸シールでいろいろな世界を描こう！ — 調整中 — 〃 〃 〃 〃 〃		66人 202人 116人 345人
7	サマー・アドベンチャー	夏休み期間限定の特別プログラムを行う。	8月 2日 8月 9日 8月16日 8月23日	丸シールアートで作品に挑戦！ フリープログラムDAY 版表現・めくるめく形の世界 マイハンド、夏の冒険物語！	72人 — 24人 24人	66人 396人 23人
8	もますまつり	「フリープログラム」の拡大版として、連休中や県民の日等を開催する。	5月 3日 11月14日	わくわく鑑賞ツアー、風を描こう！、キラキラ★カチカチ スプーンワールド、カラフルラインで紙ぶくろをつくろう！ — 調整中 —		346人

(2) 「夏休みMOMASステーション」

夏休みに来館した子供たちが美術館を効果的に楽しめるよう、ボランティアを活用して情報提供やアドバイス等を行う。

※小・中学校の夏休み期間に合わせて休館日を除き毎日開催（7/12～8/24、40日間） 利用者数 1,009人（7月31日現在）

7 学校との連携

(1) 教員美術講座の開催

美術館を活用した鑑賞指導に関する講演会等を開催し、学校における美術館利用促進と鑑賞教育の充実を図る。

期 日	内 容	定 員	参加者数
8月 6日（水）	簡単な金属素材を通じて工作活動をアップデート！「針金で作ろう！」 （講師：平野英史／埼玉大学教育学部芸術講座 准教授）	24人	19人
8月 7日（木）	素材体験「石膏にふれよう！」 （講師：對木裕里／美術作家）	24人	21人

(2) 埼玉大学との授業連携・他大学との協力

埼玉大学の学生が、美術館の教育普及事業に参画した場合、その活動を大学の単位として認定する協定を継続。

また、他大学にも様々な教育普及事業への協力を依頼する。

(3) 博物館実習生の受入れ

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要領」に基づき、学芸員志望の学生向けに実習を行う。実習期間は合同実習（7月下旬の4日間）と個別実習（7月末から8月末までの間の3日間）の合計7日間で、15大学19人を受け入れた。（定員20人）

個別実習：7月19日～8月31日、合同実習：7月15日～7月18日

実習では主に以下の内容をもとにカリキュラムを組んだ。

- ① 美術館全般について（学芸、管理、施設見学等）
- ② MOMAS コレクション（常設展）について
- ③ 企画展の概要・実務・関連事業等について
- ④ 美術資料の収集と保存について
- ⑤ 作品・図書等の取り扱いについて
- ⑥ 学校・教育普及事業の概要・学校との連携・「MOMAS のとびら」・ボランティア制度について
- ⑦ 広報と刊行物について

(4) 学校を含めた団体利用の受入れ

以下の7つの内容を組み合わせて鑑賞・体験学習を行う。

- ① 1階展示室「MOMAS コレクション」案内
- ② 2階展示室「企画展」案内
- ③ かならず出会える作品たち（屋外彫刻）案内
- ④ グッドデザインの椅子鑑賞
- ⑤ ワークショップ「洗濯ばさみで絵を描こう！」体験
- ⑥ アートカードを使った鑑賞
- ⑦ バックヤード見学

(5) 学校への授業協力

以下の内容の他、児童生徒の実態や授業のねらい等に合わせた出張授業を行う。

- ① 「知ってる？ピカソ！」
- ② 「日本画って何だろう？」
- ③ 「みつめよう！シャガールさんのこの思い」

④「見て★座って！お気に入りの椅子をみつけよう！」

⑤「洗濯ばさみで絵を描こう！」

13校 862人（7月31日現在）

(6) 研修協力

依頼に応じて、各学校の校内研修や市町村単位での図工・美術の授業研究において講義等を行う。

1件（7月31日現在）

(7) 学校等への複製画やアートカードの貸し出し

当館収蔵作品の複製画や複製パネル、アートカードなどの教材貸出を学校に貸し出す。

10件 65セット（7月31日現在）

(8) 「ミュージアム・キャラバン」の実施

県内の学校にアーティストと当館職員を派遣してワークショップを行い、鑑賞や制作活動を通して児童生徒に美術の楽しさや美術的な価値観・視点を伝えるための授業を実施する。（年2校での実施を予定）

テーマ：「よみがえる！古紙ダンボールーそして地球に還る」 講師 玉田多紀（造形作家）

(9) 公募プログラム「みつめて、かんじて、たべてみて！-作品のみかた・味わいかた」の開催

美術館における教育普及活動の価値をアピールし、学校連携の強化・継続を図るため、県内の児童生徒を対象とした公募プログラムを実施する。

令和7年度は、4点の課題作品から1点を選び鑑賞し、作品からわき上がった「食」のイメージを描くプログラムを開催する。

対象：県内の小、中、高校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校の児童生徒（個人または4人以下のグループ）

作品受付期間：7月12日（土）～9月19日（金）

課題作品：①ポール・シニャック《アニエールの河岸》1885年

②木村直道《シンバルを叩く男（バックミラー楽団）》1965-1968年

③橋本真之《果実の中の木もれ陽》1985年-

④テルイエ・エクストレム《エクストレム》製品化：1984年

作品展示期間：11月1日（土）～1月18日（日）※1階ギャラリーに展示

表彰式／試食イベント：11月16日（日）

8 ボランティア活動

(1) 美術館サポーター

常設展の解説ガイドを行うボランティアとして平成12年に発足し、当館が月1回開催する研修会へ参加するとともに、自主的な研修を重ねている。主な活動としては、「MOMASコレクション」開催中のほぼ毎日、午後2時から30分程度、来館者の鑑賞を支援するため作品解説を行う。登録者数：25人（7月31日現在）

(2) 教育普及サポート・スタッフ

「夏休みMOMASステーション」、ツアーガイド、「MOMASのとびら」等の教育普及事業をサポートするボランティア・スタッフとして活動している。教員や美術教育に関心を持つ学生等が参加し、毎年6月中旬から7月初めに行う研修を経て、1年間の任期で活動を行う。登録者数：67人（7月31日現在）

(3) 彫刻ボランティア

平成29年度より、土曜日の子供向け普及事業「MOMASのとびら」にて、彫刻洗浄プログラムを行う際の外部講師として活動している。登録者数：8人（7月31日現在）

9 「椅子」の有効活用

国内外のグッド・デザインの椅子を、来館者に自由に鑑賞してもらう。これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせ、定期的に入れ替えを行い、常時20脚～30脚程度を館内の各所に配置するとともに、当館ホームページの「今日座れる椅子」コーナーで紹介する。また、学校への授業協力等でも活用している。

10 一般展示室の利用状況

(令和7年7月31日現在)

No.	展覧会名	開催期間 R7年度		開催 日数 (日)	利用室	分野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
1	鈴木千賀子の世界展	4月1日	4月6日	6	3	彫刻 工芸	40	778	129
2	第10回彩友会ボタニカルアート展	4月1日	4月6日	6	4	水彩	55	634	105
3	国川広 個展「遠い人々のポートレート」	4月8日	4月20日	12	1	油彩 ドローイング	339	934	77
4	第53回主体美術武蔵野作家展	4月8日	4月13日	6	2～3	油彩	64	456	76
5	第41回溪水会展	4月8日	4月13日	6	4	日本画 水彩	37	501	83
6	第19回フォト・トルトゥーガ写真展－光と影の記憶2025－	4月15日	4月20日	6	2	写真	70	590	98
7	ありあるクリエイションズ藝術企画ヨシズミトシオ個展	4月15日	4月27日	12	4	水墨画 油彩	47	1,027	85
8	第48回女流工芸展 in 埼玉	4月24日	4月27日	4	1	工芸	168	1,182	295
9	中山たい子水彩画展	4月22日	4月27日	6	3	水彩	26	373	62
10	第28回二科埼玉支部展	4月29日	5月4日	6	1～4	水彩 油彩 彫刻	140	1,284	214
11	第73回埼玉県美術展覧会	5月28日	6月19日	20	1～4	日本画 油彩 彫刻 工芸 書 写真	1,798	21,260	1,063
12	第44回埼玉県高等学校写真連盟写真展	7月1日	7月6日	6	1	写真	644	1,201	200
13	椿会創作人形展	7月1日	7月6日	6	4	創作人形	130	413	68
14	第23回埼玉独立展	7月8日	7月13日	6	1	水彩 油彩 アクリル	67	577	96
15	2025埼玉モダンアート展	7月8日	7月13日	6	2～3	水彩 油彩 版画 彫刻 工芸	35	561	93
16	新洋画会埼玉支部展	7月8日	7月13日	6	4	日本画 水彩 油彩	46	538	89
17	第51回埼玉二紀展	7月15日	7月20日	6	1～4	油彩 彫刻	104	959	159
18	第30回基の会	7月22日	7月27日	6	2	油彩 ミクストメディア	20	415	69
19	第35回白の会洋画展	7月22日	7月27日	6	3	油彩	22	467	77
20	第14回五彩展	7月22日	7月27日	6	4	油彩 アクリル	35	601	100
		公開期間の日数		74日			合計	34,751人	469人
		県展を除いた日数		54日			県展を除いた合計	13,491人	249人

11 令和7年度入館者数一覧（令和7年7月31日現在）

	館全体	展 示 事 業						普 及 事 業				貸館事業	
		MOMAS コレクション	企 画 展 示					企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	資料閲覧室	一 般 展示室	埼玉県 美術 展覧会
			メキシコへの まなざし	Nerhol	野島康三と斎 藤与里	コレクションの 舞台裏	企画展計						
開 催 期 間	4/1(火) ～ 7/31(木)	4/1(火) ～ 7/31(水)	4/1(火) ～ 5/11(日)	7/12(土) ～ 10/13(月)	11/1(土) ～ 1/18(日)	2/7(土) ～ 5/10(日)						4/1(火) ～ 7/27(日)	5/28(水) ～ 6/19(木)
(日) 日 数	99	95	37	18			55	3	3	11	49	54	20
(人) 観 覧 者 数 利 用 者 数	69,659	13,628	6,525	2,508			9,033	256	70	1,175	920	13,491	21,260
(人) 1 日 当 た り 平 均	703	143	176	139			164	85	23	106	18	249	1,063
有 料	一般個人	4,809	3,579	1,123			4,702						
	一般団体	567	287	99			386						
	大高個人	338	218	78			296						
	大高団体	105	113	1			114						
	(人) 合 計	5,819	4,197	1,301			5,498						
無 料	(人) 料	7,809	2,328	1,207			3,535						

月別入館者数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	(人) 合計
入 館 者 数	16,016	18,193	22,088	13,362									69,659
(令和6年度)	14,617	15,842	22,931	12,556	14,068	15,293	14,039	17,486	13,792	12,497	16,964	19,629	189,714

12 令和7年度 当初予算の概要

【支 出】

(単位：千円)

事業名	R7年度		R6年度		増減額 (R7-R6)	増減率
	当初予算額	割合	当初予算額	割合		
企画展事業費	47,218	24.4%	50,192	29.0%	△ 2,974	△ 5.9%
美術館管理運営費	94,835	49.0%	71,158	41.2%	23,677	33.3%
教育財産管理費	1,400	0.7%	1,400	0.8%	0	0.0%
事務局費〔経常費〕	50,093	25.9%	50,093	29.0%	0	0.0%
合 計	193,546	100.0%	172,843	100.0%	20,703	12.0%

【収 入】

(単位：千円)

区分	R7年度		R6年度		増減額 (R7-R6)	増減率
	当初予算額	割合	当初予算額	割合		
観 覧 料 収 入	22,691	11.7%	21,767	12.6%	924	4.2%
一般展示室等使用料	12,524	6.5%	13,842	8.0%	△ 1,318	△ 9.5%
行政財産使用料	4,025	2.1%	4,730	2.7%	△ 705	△ 14.9%
図録等売払収入	5,534	2.9%	6,692	3.9%	△ 1,158	△ 17.3%
そ の 他	3,122	1.6%	977	0.6%	2,145	219.5%
一 般 財 源	145,650	75.3%	124,835	72.2%	20,815	16.7%
合 計	193,546	100.0%	172,843	100.0%	20,703	12.0%

令和6年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標設定
中間評価(6月末実績)
○ 年度未確定評価
3/31現在

施設名 近代美術館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト(自己点検表)

II 目標設定

- 1 中期重点目標と取組みの設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組みの概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

- 1 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。
- 2 人々が集い、参加し、交流するための基地となります。
- 3 未来を創る子供たちの感性と創造力を育みます。
- 4 地域や県民とともに進化する美術館を目指します。

2 現状分析と課題の抽出

- ・出会い・発見・感動をキーワードに、新たな視点に基づく企画展・常設展や美術の楽しさを体感できるプログラムの提供に努めており、今後も更なる充実を図る必要がある。
- ・そのためには、美術資料収集基本方針に基づいた体系的なコレクションを形成し、作品の継続的な収集と適切な保存に努めるとともに、美術館活動の基盤となる調査研究を推進しなければならない。
- ・美術館では、展示室に加え、レストランやミュージアムショップなども備えているが、より上質な空間とゆとりの時間を提供できるような工夫をしなければならない。併せて、高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすく、居心地の良い環境となるよう老朽化した施設設備の整備に努める必要がある。
- ・また、「MOMASのとびら」をはじめとする、子供向け教育・普及事業を積極的に実施している一方で、子供たちが感性や創造力を生き生きと発揮できる事業の検討が求められている。
- ・地域との連携を一層深めるとともに、美術館が地域の賑わいや活性化に寄与することが求められている。併せて、地域住民の憩いの場である北浦和公園の整備と活用も進める必要がある。
- ・デジタル化に対応するため、収蔵作品のデジタル・アーカイブ化とその公開を進めるなど、デジタル技術を活用した取組を推進して新たな顧客層の開拓を進めることが必要である。

I-3 チェックリスト(自己点検表)

施設名

近代美術館

(1) 全館共通項目

項目	チェック内容	達成度	達成基準	
			未実施、又は取り組まれていない	1
			実施しているが、取組が不十分	2
			実施、又は達成している	3
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	2	寄贈・寄託による作品収集は行っているが、予算上作品購入が困難な状況。	
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	3		
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3		
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	3		
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	2	予算の範囲内で修復作業を行っているが、十分ではない。	
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	3		
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	3		
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3		
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	3	作品情報は公開している。画像は、著作権者に意向を伺いながら、可能な作品は、公開の手続きを進めている。	
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3		
	② 常設展示は定期的に更新しているか。	3		
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	展示替え毎に、閲覧できる解説カードを設置している。	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	コレクション・トーク	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3		
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	2	館内サイン、常設展示の作品名は、英語表記等に対応済み。企画展のコーナー解説や掲出物の翻訳は一部に限る。	
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3		
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3		
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3		
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3		
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3		

項目	チェック内容			
情報発信	①	SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	著作権者に了解を得られた資料から順次、デジタル画像等を公開している。
県民との協働・地域連携	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法（著作物、展示、講演、研究発表等）で公開しているか	3	
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	2	トイレ等の音声ガイダンスは未実施。
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	2	英・中・ハングル語のフロア案内のみにとどまっている。
	⑥	展示室内の安全性の確保（監視員の配置・監視カメラの設置等）に努めているか。	3	
施設の活用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 近代美術館

(2)館別独自項目

		達成基準	
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組が不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
企画展示の実施	① 企画展の理解を深めるため学芸員や関係者による展示解説、講演会等を適宜実施しているか	3	
	② 展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか	3	
	③ 外部資金の導入に努力しているか	3	
	④ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
教育普及および連携・支援活動の実施	① 美術や芸術全般に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか	3	
	② 授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか	3	
	③ 教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか	3	
	④ 学校への職員派遣など、授業協力を実施しているか	3	
	⑤ 大学と協働して学生を適切に指導しているか	3	
地域・他機関との交流・協力事業の実施	① 地域・他機関・他美術館との協力事業を実施しているか	3	
	② 企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか	3	
	③ 北浦和公園を活用した地域との交流・協力事業を実施しているか	3	彫刻あらいぐま、ポリスコンサートを実施。また、自治会も含めた公園の防災設備の使用訓練等を実施予定。個人・近隣企業のボランティアによる植栽の手入れ等も実施している。
収蔵作品等の保全と危機管理	① 収蔵庫における収蔵作品と防災対策は適切か	3	
	② 展覧会会場の作品保全と防災対策は適切か	3	
	③ 美術作品の梱包、運搬は適切に行われているか	3	
	④ 屋外彫刻のメンテナンスを行っているか	2	定期的に洗浄は実施しているが、対応が難しい彫刻素材等の劣化がある。
	⑤ 危機管理マニュアル等は適宜、見直しを行っているか	3	
	⑥ 危機管理マニュアル等は、全職員に周知しているか	3	
	⑦ 開館中や閉館時など、様々な場面を想定した避難訓練を行っているか	3	

Ⅱ 目標設定

1 中期重点目標と取組の設定

【中期重点目標】

- | | |
|------------------------------------|---------|
| ① 美術資料の体系的な収集と適切な保存のための施設の確保に向けた検討 | 令和5～9年度 |
| ② 調査研究と企画展・常設展等の更なる充実 | 令和5～9年度 |
| ③ 利用者のための快適な環境づくり | 令和5～9年度 |
| ④ 子供たちの感性と創造力の育成 | 令和5～9年度 |
| ⑤ 地域の賑わいや活性化の創出 | 令和5～9年度 |
| ⑥ デジタル技術の活用の推進 | 令和5～9年度 |

【取組】

- ① 美術作品取得基金における動産の買戻しへの働きかけと新収蔵庫等の確保に向けた検討
- ② 収蔵作家、埼玉ゆかり作家の調査研究とその成果を生かした展示等の実施
 ＜企画展・常設展の満足度 各年度90%以上＞
- ③ 美術館と北浦和公園の計画的な施設設備の整備
 ＜改修・修繕件数 R5:30件、R6:30件、R7:30件、R8:30件、R9:30件＞
- ④ 子供向け教育・普及事業の充実
- ⑤ (1)地域の賑わいや活性化を創出する取組の実施
 (2)一般向け教育・普及事業の実施
- ⑥ 収蔵作品のデジタル画像(高精細画像を含む)の公開
 ＜公開画像件数 R5:1900件、R6:2300件、R7:2700件、R8:3100件、R9:3500件＞

Ⅱ－２ 単年度指標による目標値と達成値

令和7年3月31日現在

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1～4 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	203,000	人	96.8%	教育振興基本計画を踏まえた目標値
				196,433	人		入館者数189,714+アウトリーチ6,719
2	使命1 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	37,730	人	104.9%	基準値:34,956人 目標参考値:37,724人 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較し大きい方の数値
				39,573	人		R5年度4期4～6月分:7,545人、R6年度1期:9,858人、 2期:10,248人、3期:9,140人、4期:2,782人 (3/31時点)
3	使命1～4 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	670	人	95.5%	(年間入館者+アウトリーチ)÷開館日数 上記の過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値(基準値) か昨年度値と比較して大きい方の数値(目標参考値)
				640	人		(189,714人+6,719人)÷307日
4	使命2・4 情報発信・活用	デジタル情報の利用状況	HPアクセス数	912,250	件	102.7%	基準値:875,550件 目標参考値:912,242件 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較し大きい方の数値
				936,724	件		3月末時点
5	使命1～4 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	240	件	87.1%	基準値:238件 目標参考値:238件 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較し大きい方の数値
				209	件		3月末時点
6	使命1～3 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	25,992,000	円	77.6%	* 当該年度予算計上額(企画展)
				20,176,985	円		使用料及び手数料 16,172,585円 財産収入 4,004,400円

(2)館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命1 展示公開	企画展観 覧者	年間企画展観 覧者数	37,557	人	76.2%	実施予定の企画展の予算積算人数
				28,602	人		アブソリュート・アブソリュート・チェアーズ(令和6年度)/6,190人、吉田 克朗/8,863人、木下佳通代/6,365人、メキシコへのまなざし/7,184人
2	使命3 学校との 連携	学校利用	学校団体の美 術館利用校数	40	校	87.5%	基準値:31校 目標参考値:36校 上記の過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値(基準値) か昨年度値と比較して大きい方の数値(目標参考値)
				35	校		3月末時点
3	使命3 学校との 連携	授業協力	学校での鑑賞 授業の回数	50	校	150.0%	基準値:45校 目標参考値:45校 上記の過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値(基準値) か昨年度値と比較して大きい方の数値(目標参考値)
				75	校		3月末時点
4	使命3 子供向け 事業	MOMAS のとびら	MOMASのと びら参加人数	1,390	人	163.5%	基準値:846人 目標参考値:1,386人 上記の過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値(基準値) か昨年度値と比較して大きい方の数値(目標参考値)
				2,272	人		35回実施
5	使命1 満足度	アンケート	企画展・常設 展の満足度	90%以上	%	100.0%	中期重点目標による取組
				97.00%			企画展:アブソリュート・チェアーズ* 97%、吉田克朗 96%、木下佳通代 95% / 常設展:MOMASコレクション(6/8-8/25)99%、(8/31- 11/24)97%、(11/30-3/2)99%
6	使命2 施設設備 の整備	改修・修繕	改修・修繕件 数	30	件	146.7%	中期重点目標による取組
				44	件		業者依頼分:28件 職員対応分:16件(レストランドアノブ、流し の詰まり修繕、樹木伐採、展示パネルキャスター交換など)
7	使命4 デジタル技 術の活用	収蔵作品 のデジタル 画像	公開画像件数	2,300	件	139.1%	中期重点目標による取組
				3,200	件		著作権保護期間経過後の作品は全点公開済み。期間内の作 品については、著作権者の許諾を得る手続きが完了したもの から順次公開している。

※ 利用者数＝常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数＝特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数

※ 基準値:過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値:基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値
目標値:目標参考値の1の位を繰り上げた数値

※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

(1) 全館共通項目

- 利用者数、利用状況、広聴・広報、経営努力
新型コロナウイルスによる利用者の減少を回復させるため、企画展、常設展等のさらなる周知を図る。
また、引き続き感染症拡大防止に努めながら、トークイベントや担当学芸員の作品解説のほか、主催事業の参加者の増加を見込んでいる

(2) 館別独自項目

- 企画展
館HPやチラシの配布など広報活動により企画展内容の魅力発信を行い、入館者数の増に結びつけていく。
- 学校との連携
広報活動等を積極的に行うことにより学校の美術館利用を促進し、学校での鑑賞授業回数を増やしていく。
- 子供向け事業
MOMASのとびらなどについて、引き続き感染症拡大防止に努めながら、よりたくさんの参加者を募ることができるよう、内容の充実と広報活動を進める。
- 情報提供サービス、インターネット活用などの利用状況
美術館に関心を持ってもらえるよう広報を充実させ、年間レファレンス対応件数を伸ばすとともに、ホームページの内容を魅力あるものに改善していく。
- 満足度
企画展・常設展については既に満足度が90%以上と高い満足をいただいている。来館者の声を聴き、各展示の充実に努めていく。

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

・ 企画展は、昨年度から年度をまたいで開催した、美術の文脈における椅子の表現に着目した「アブソリュート・チェアーズ」を皮切りに、本県出身の作家を回顧した「吉田克朗展－ものに、風景に、世界に触れる」、70年代以降の美術に重要な足跡を残した女性作家の回顧展「没後30年 木下佳通代」、当館のコレクションを核にした「メキシコへのまなざし」の4本を開催した。椅子というテーマ、埼玉ゆかり作家、70年代美術の関連、コレクション活用など、いずれも当館の特色を活かした内容であった。年間観覧者数は28,602人であり、目標数が37,557人であることから、達成率は76.2%となった。昨年度の達成率62.2%よりは向上したが、今後は効果的な広報などを探りながら、達成率100%以上を目指したい。

・ 常設展観覧者数は、39,573人で、目標の37,724人を4.9%上回り、昨年度に続いて目標を越え、好調である。毎回、各コーナーの内容を工夫し、調査研究をもとにした特集展示やテーマ展示などを実施していることが成果に繋がっていると考えられる。また、手ごろで入りやすい観覧料(大人200円、大高生100円)である点も、観覧者数増に関係していると分析している。

・ 教育普及事業に関しては、当館でワークショップ等を行うMOMASのとびらの定期的な実施のほか、当館独自の事業である、児童生徒を対象とした公募展「みつめて、かんじて、たべてみて－作品のみかた・味わいかた」、活躍中のアーティストを派遣して県内の学校で実施するワークショップ「ミュージアム・キャラバン」を開催した。公募プログラムの応募数は前年度の129点を上回る217点に達し、これらの作品を1階吹き抜けまわりの無料スペースに展示したほか、受賞者の表彰式および総合グランプリの作品をもとにした料理を試食するイベントも開催した。また、ミュージアム・キャラバンも2校で実施し、参加児童生徒数は合計277人となり、成果を挙げた。

・ 収蔵作品のデジタル画像の公開については、公開画像の再調整を要する作品等があるが、目標である2,300件を大幅に越える約3,200件を公開することができた。

(2)課題と対応の方向

・入館者数について、以前は年間20万人を上回っていたが、コロナ禍以降、年間20万人を下回る年度が続いている。入館者数が最も少なかった令和2年度と比較すると、約12万人増加し、18万9,714人となったが、目標である20万4千人には達することができなかった。

・物価高騰や予算上の制約で年間の企画展の開催本数を減らしたことが、その要因の一つとして考えられる。無料スペースを活用した展示(公募展応募作品展示、館内各所で座れるデザイン椅子の展示、アーティスト・プロジェクトほか)も積極的にPRしながら、多くの県民に足を運んでいただけるように努力する必要がある。

・年間の企画展の開催本数が減った分、個々の企画展の観覧者数の確保が重要な課題となる。大手メディアと連携した集客力のある大型展の開催は経費的に難しいため、各企画展で着実に集客を積み上げていく必要がある。企画展のテーマに合わせターゲットを絞った広報発信を念頭に置きつつ、SNSなどの活用のほか、多くの美術ファンが閲覧するサイトでの有料広告の掲載なども適宜採り入れていくべきであろう。

・また、施設の老朽化が課題のひとつになっている。美術館運営に大きな影響を与えることにならないよう、定期的な点検等を行うとともに、優先順位を見極めながら速やかに修繕等を行う必要がある。

・収蔵作品のデジタル画像の公開については、当該年度の目標値を上回る数まで作業が進行した。継続して画像公開の手続きを進めると同時に、今後は収蔵作品のデータベースの整備を図りながら、公開画像のトリミングなどの再調整、アナログ写真のデジタル化、劣化したアナログ写真の再撮影、著作権者が不詳な方の調査、新規に収蔵された作品の画像公開に関わる手続きなどを行う必要がある。

2 外部評価委員等によるコメント

令和7年度 博物館施設 目標設定・評価シート

○ 年度当初目標設定

年度末確定評価

施設名 近代美術館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト(自己点検表)

II 目標設定

- 1 中期重点目標と取組みの設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組みの概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

- 1 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。
- 2 人々が集い、参加し、交流するための基地となります。
- 3 未来を創る子供たちの感性と創造力を育みます。
- 4 地域や県民とともに進化する美術館を目指します。

2 現状分析と課題の抽出

- ・出会い・発見・感動をキーワードに、新たな視点に基づく企画展・常設展や美術の楽しさを体感できるプログラムの提供に努めており、今後も更なる充実を図る必要がある。
- ・そのためには、美術資料収集基本方針に基づいた体系的なコレクションを形成し、作品の継続的な収集と適切な保存に努めるとともに、美術館活動の基盤となる調査研究を推進しなければならない。
- ・美術館では、展示室に加え、レストランやミュージアムショップなども備えているが、より上質な空間とゆとりの時間を提供できるような工夫をしなければならない。併せて、高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすく、居心地の良い環境となるよう老朽化した施設設備の整備に努める必要がある。
- ・また、「MOMASのとびら」をはじめとする、子供向け教育・普及事業を積極的に実施している一方で、子供たちが感性や創造力を生き生きと発揮できる事業の検討が求められている。
- ・地域との連携を一層深めるとともに、美術館が地域の賑わいや活性化に寄与することが求められている。併せて、地域住民の憩いの場である北浦和公園の整備と活用も進める必要がある。
- ・デジタル化に対応するため、収蔵作品のデジタル・アーカイブ化とその公開を進めるなど、デジタル技術を活用した取組を推進して新たな顧客層の開拓を進めることが必要である。

I-3 チェックリスト(自己点検表)

施設名

近代美術館

(1) 全館共通項目

達成基準			
未実施、又は取り組まれていない		1	
実施しているが、取組が不十分		2	
実施、又は達成している		3	
項目	チェック内容		達成度
資料収集	①	資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	
	②	映像資料や情報資料等を収集しているか	
資料の保存管理	①	収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	
	②	資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	
	③	資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	
	④	資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	
資料活用	①	収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	
	②	収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	
	③	収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	
常設展示	①	展示設備等を適宜点検しているか	
	②	常設展示は定期的に更新しているか。	
	③	展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	
	④	展示解説等を適宜実施しているか	
	⑤	アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	
	⑥	日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	
	⑦	観覧者の満足度は得られているか	
学習支援・普及事業	①	誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	
	②	アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	
	③	来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	
	④	学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	

項目	チェック内容			
情報発信	①	SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか		
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか		
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか		
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか		
県民との協働・地域連携	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか		
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか		
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか		
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか		
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか		
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか		
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか		
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか		
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか		
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法（著作物、展示、講演、研究発表等）で公開しているか		
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか		
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか		
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか		
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか		
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか		
	⑥	展示室内の安全性の確保（監視員の配置・監視カメラの設置等）に努めているか。		
施設の活用	①	施設利用のための情報を公開しているか		
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか		
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか		
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか		

施設名

近代美術館

(2)館別独自項目

		達成基準	
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組が不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
企画展示の実施	① 企画展の理解を深めるため学芸員や関係者による展示解説、講演会等を適宜実施しているか		
	② 展示内容に即した弾力的な広報活動を実践しているか		
	③ 外部資金の導入に努力しているか		
	④ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか		
教育普及および連携・支援活動の実施	① 美術や芸術全般に対する理解を深めるテーマを設定した事業を適宜実施しているか		
	② 授業や部活などの受け入れ体制を整備しているか		
	③ 教員の資質向上を目的とした研修を実施しているか		
	④ 学校への職員派遣など、授業協力を実施しているか		
	⑤ 大学と協働して学生を適切に指導しているか		
地域・協働・他機関との交流	① 地域・他機関・他美術館との協力事業を実施しているか		
	② 企画展等を通じ国外美術館等と相互交流を図っているか		
	③ 北浦和公園を活用した地域との交流・協力事業を実施しているか		
収蔵作品等の保全と危機管理	① 収蔵庫における収蔵作品と防災対策は適切か		
	② 展覧会会場の作品保全と防災対策は適切か		
	③ 美術作品の梱包、運搬は適切に行われているか		
	④ 屋外彫刻のメンテナンスを行っているか		
	⑤ 危機管理マニュアル等は適宜、見直しを行っているか		
	⑥ 危機管理マニュアル等は、全職員に周知しているか		
	⑦ 開館中や閉館時など、様々な場面を想定した避難訓練を行っているか		

Ⅱ 目標設定

1 中期重点目標と取組の設定

【中期重点目標】

- | | |
|------------------------------------|---------|
| ① 美術資料の体系的な収集と適切な保存のための施設の確保に向けた検討 | 令和5～9年度 |
| ② 調査研究と企画展・常設展等の更なる充実 | 令和5～9年度 |
| ③ 利用者のための快適な環境づくり | 令和5～9年度 |
| ④ 子供たちの感性と創造力の育成 | 令和5～9年度 |
| ⑤ 地域の賑わいや活性化の創出 | 令和5～9年度 |
| ⑥ デジタル技術の活用の推進 | 令和5～9年度 |

【取組】

- ① 美術作品取得基金の活用と収蔵スペースの確保に向けた検討
- ② 収蔵作家、埼玉ゆかり作家の調査研究とその成果を生かした展示等の実施
＜企画展・常設展の満足度 各年度90%以上＞
- ③ 美術館と北浦和公園の計画的な施設設備の整備
＜改修・修繕件数 R5:30件、R6:30件、R7:30件、R8:30件、R9:30件＞
- ④ 子供向け教育・普及事業の充実
- ⑤ (1) 地域の賑わいや活性化を創出する取組の実施
(2) 一般向け教育・普及事業の実施
- ⑥ 収蔵作品のデジタル画像(高精細画像を含む)の公開・データベースの整備
＜公開画像情報更新済件数 R5:3,100件、R6:3,200件、R7:3,300件、R8:3,400件、R9:3,500件＞

Ⅱ-2 単年度指標による目標値と達成値

令和7年4月1日現在

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値	達成率	目標値の設定根拠
				達成値		特記事項
1	使命1～4 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	217,000 人	0.0%	教育振興基本計画を踏まえた目標値 ※1
2	使命1 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	39,580 人	0.0%	基準値: 35,751人 目標参考値: 39,573人 ※2 4期4・5月分: 人、R7年1期: 人、 2期: 人、3期: (3/31時点)
3	使命1～4 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	710 人	0.0%	利用者数(※1)÷開館日数 ※2
4	使命2・4 情報発信・活用	デジタル情報の利用状況	HPアクセス数	936,730 件	0.0%	基準値: 892,934件 目標参考値: 936,724件 ※2
5	使命1～4 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	230 件	0.0%	基準値: 225件 目標参考値: 225件 ※2
6	使命1～3 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	25,422,000 円	0.0%	* 当該年度予算計上額(企画展)

(1) 全館共通項目

※1 利用者数＝常設展観覧者数(特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数)+無料入館者数+アウトリーチ参加者数+講座・講演・イベント参加者数+資料貸出・特別利用件数+レファレンス件数+動画再生回数+SNSリアクション数(第4期教育振興基本計画の目標指標による定義)

※2 基準値: 過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値: 基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値: 目標参考値の1の位を繰り上げた数値

目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値	達成率	目標値の設定根拠
				達成値		特記事項
1	使命1 展示公開	企画展観覧者	年間企画展観覧者数	32,892 人	0.0%	実施予定の企画展の予算積算人数
2	使命3 学校との連携	学校利用	学校団体の美術館利用校数	40 校	0.0%	基準値: 31校 目標参考値: 36校 ※3
3	使命3 学校との連携	授業協力	学校での鑑賞授業の回数	50 校	0.0%	基準値: 45校 目標参考値: 75校 ※3 ただし、昨年度達成値が突出しているため、基準値を目標値とする
4	使命3 子供向け事業	MOMASのとびら	MOMASのとびら参加人数	2,280 人	0.0%	基準値: 846人 目標参考値: 1,386人 ※3
5	使命1 満足度	アンケート	企画展・常設展の満足度	90%以上 %	100.0%	中期重点目標による取組
6	使命2 施設設備の整備	改修・修繕	改修・修繕件数	30 件	0.0%	中期重点目標による取組
7	使命4 デジタル技術の活用	収蔵作品のデジタル画像	公開画像情報更新済件数	3,300 件	0.0%	中期重点目標による取組

※3 基準値: 過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値: 基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値: 目標参考値を踏まえ各館が独自に設定した数値

3「中期重点目標」に対する取組の概要

施設名

近代美術館

- ① 美術資料の体系的な収集と適切な保存のための施設の確保に向けた検討
 収蔵品の体系的な収集を進展させていくため、美術作品取得基金を活用した作品の継続的な購入ができるように、調整を進める。
 収蔵品の適切な管理を維持していくため、収蔵庫における収納方法を工夫すると同時に、外部倉庫の活用も含め新たな収蔵スペースの確保を検討する。
- ② 調査研究と企画展・常設展等の更なる充実
 収蔵作家および埼玉ゆかりの作家を核とした調査研究を継続し、常設展等でその成果を反映させる。
 企画展においても、埼玉ゆかりの作家に焦点をあてた「野島康三と斎藤与里」や、収蔵作品に関する新たな調査研究をもとにした「コレクションの舞台裏」を開催する。
- ③ 利用者のための快適な環境づくり
 課題となっている施設の老朽化に対応するため、定期的な点検等を行うとともに、優先順位を見極めながら計画的に美術館及び北浦和公園の施設設備の修繕等を行っていく。
 特に公園については、「公園長寿命化計画」に基づき、外灯のLED化や噴水関連の修繕等を行う。
- ④ 子供たちの感性と創造力の育成
 学校団体の受入、学校の授業協力、ワークショップを行うMOMASのとびらを、年間を通じて実施する。
 活躍中の美術家を学校に派遣してワークショップを行うミュージアム・キャラバンや、児童生徒を対象とした公募展など、当館独自の教育普及事業を実施する。
- ⑤ 地域の賑わいや活性化の創出
 北浦和公園と隣接する美術館の立地を生かし、教育普及事業やポリス・コンサートなどを公園で実施する。
 近隣の自治会に、当館の広報物等の配布協力等を依頼する。
 ボランティアとして活動できる場を提供する。
- ⑥ デジタル技術の活用の推進
 著作権に留意しながら、収蔵作品のデジタル画像の公開を進める。
 上記と平行して収蔵作品のデータベースの整備を図りながら、公開画像のトリミングなどの再調整、アナログ写真のデジタル化、劣化したアナログ写真の再撮影なども行う。

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

(2) 課題と対応の方向

2 外部評価委員等によるコメント